

# 石ノ森萬画館を中核とした石巻中心市街地の文化観光推進拠点計画

# 石ノ森萬画館を中核とした石巻中心市街地の文化観光推進拠点計画 目次

1 実施体制	4
2 事務の実施体制	5
3 基本的な方針	
3-1 現状分析	
3-1-1 主要な文化資源	6
3-1-2 来訪客の動向	9
3-1-3 他の文化資源保存活用施設との比較	16
3-2 課題	17
3-3 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	19
3-4 地域における文化観光の推進への貢献	22
3-5 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	23
4 目標	
目標①：石ノ森萬画館入館者数【有料入館者数】	24
目標②：石ノ森萬画館来館者の満足度	25
目標③：石ノ森萬画館入館者数のうち、中心市街地を周遊した者の人数	25
目標④：石ノ森萬画館総入館者数のうち、石巻市内に宿泊した観光客の割合	26
目標⑤：石ノ森萬画館来館者のうちの外国人の人数	26
5 目標の達成状況の評価	27
6 文化資源保存活用施設	
6-1 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	
6-1-1 現状の取組	27
6-1-2 本計画における取組	27
6-2 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	
6-2-1 現状の取組	28
6-2-2 本計画における取組	28
6-3 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	
6-3-1 現状の取組	29
6-3-2 本計画における取組	29
7 文化観光拠点施設機能強化事業	
7-1 事業の内容	
7-1-1 文化資源の魅力の増進に関する事業	
事業番号1-① 常設展示改修事業	29
事業番号1-② 原画デジタルベース化事業	30
事業番号1-③ 原画展示コーナー改修検討事業	30
事業番号1-④ 企画展開催事業	31
事業番号1-⑤ マンガ列車を活用した体験ツアー催行事業	31
7-1-2 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅行客が文化について理解を深めることに資する措置に関する事業	
事業番号2-① 多言語版ウェブサイト制作発信事業	32
7-1-3 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	

事業番号3-① デジタルサイネージ配信事業	3 2
事業番号3-② 館内サイン多言語化事業	3 3
7-1-4 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業	
事業番号4-① コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業	3 3
事業番号4-② ナイトイベントを活用した宿泊プラン造成事業	3 4
7-1-5 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	
事業番号5-① 海外の日本博等における「マンガのまち・石巻」の発信事業	3 4
7-1-6 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	
事業番号6-① 空調機能改修事業	3 5
事業番号6-② 原画展示コーナー整備事業	3 5
事業番号6-③ カフェスペース改修事業	3 6
7-2 特別措置に関する事項	
7-2-1 必要とする特例措置の内容	3 6
7-3 必要な資金の額及び調達方法	3 8
8 計画期間	4 1

# 石ノ森萬画館を中核とした石巻中心市街地の文化観光推進拠点計画

## 1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	石ノ森萬画館	所在地	宮城県石巻市中瀬2番7号
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	石巻市	所在地	宮城県石巻市穀町14番1号
	代表者	市長 齋藤 正美		
	地方公共 団体内部 の役割	【主担当部署】 観光課（観光・物産振興） 【連携する部署】 商工課（中心市街地活性化）、都市計画課（都市計画）、生涯学習課（文化振興）		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	(株)街づくりまんぼう	所在地	宮城県石巻市中瀬2番7号
	代表者	代表取締役社長 木村 仁		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	(一社)石巻観光協会	所在地	宮城県石巻市中央2丁目11番21号
	代表者	会長 後藤 宗徳		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	(一社)石巻圏観光推進機構	所在地	宮城県石巻市中央2丁目11番21号
	代表者	代表理事 後藤 宗徳		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	街なかインバウンド推進ネットワーク	所在地	宮城県石巻市中央2丁目11番21号
	代表者	事務局長 阿部 勝浩		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者⑤ 文化観光推進 事業者	名称	(株)元気いしのまき	所在地	宮城県石巻市中央2丁目11番11号
	代表者	代表取締役社長 後藤 宗徳		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

## 2. 事務の実施体制

文化観光拠点施設の設置者である石巻市が推進する「マンガを活かした夢のあるまちづくり事業」の実現に向けて、拠点計画の立案、全体の調整や進捗管理等を行い、共同申請者及び協力者と連携して事業を行うこととする。

### 石巻市（文化観光拠点施設の設置者）

【観光課】石ノ森萬画館の所管課として、全体の調整、進捗管理、事業実施を行い、文化観光を推進する。

【商工課】商店街の周遊促進等、中心市街地活性化を担当。石ノ森萬画館の設置目的の一つが中心市街地活性化であるため、連携して本拠点計画に基づく中心市街地の周遊促進に取り組む。

【都市計画課】中心市街地の一部を計画区域とした都市再生整備計画を策定しており、その中に滞在快適性等向上区域（ウォーカブル区域）を設定している。本拠点計画が都市再生整備計画の区域に含まれるため、情報共有しながら進める。

【生涯学習課】本市の博物館施設や資料館、歴史文化に係る資源・史料全般を所管しており、文化資源活用について助言を得ながら本拠点計画を進める。

### (株)街づくりまんぼう

石ノ森萬画館指定管理者であり都市再生推進法人である同社が中心的なプレイヤーとなって事業を実施。さらに漫画家やクリエイター等とのコネクションを活かした企画立案等も展開。

### (一社)石巻観光協会

観光協会として、市内の飲食店、宿泊施設、販売事業者等と繋がりがあり、他県の観光関連団体とも繋がりがあることから、ネットワークを活かした事業告知や、イベント時における傘下団体との連絡調整を役割とする。また、観光客を複数の目的を持って周遊させるため、食や地域行事、歴史、文化などの観光素材を掘り起こし、集客企画や滞在時間延長に資する施策の立案等を行う。

### (一社)石巻圏観光推進機構

DMOとして着地型観光商品の造成・販売を行い、インバウンド強化や体験型観光商品の造成に取り組む。また、大手旅行事業者との連携を実施するとともに、本計画実施に伴うマーケティング調査や事業の進捗評価を実施する。

### 街なかインバウンド推進ネットワーク

中心市街地の商店街に店舗を構える事業主を中心に組織された協議会で、石巻港への大型外国客船寄港時等に、インバウンドのおもてなし体制を構築することを目的に、各事業主へ連絡調整を実施している。本事業においても、インバウンド来訪時の協力体制構築を、同協議会を通じて行う。

### (株)元気いしのまき

文化観光推進拠点・石ノ森萬画館の最寄りの商業施設である「いしのまき元気いちば」を運営する。石ノ森萬画館と連携し、プレイヤーの一人として周遊企画に参画する。

### 3. 基本的な方針

#### 3-1. 現状分析

##### 3-1-1. 主要な文化資源

###### ■石巻市 [文化観光拠点施設の所在地]

宮城県の北東部に位置する仙台市に次ぐ県内第二の都市である。古くはまちの中心部を流れる北上川を活用した舟運によって、また、近代では金華山沖漁場を背景とした漁業の街として栄えてきた。近年になって基幹産業である漁業、造船業、商業等に陰りがみえてきた中、平成7年に漫画家・石ノ森章太郎の来訪をきっかけに市民有志が団体を作り、大勢の漫画家の協力を得て「マンガを活かした夢のあるまちづくり事業」を推進。さらに、石巻市も参画して「石巻マンガランド構想及び基本計画」を策定し、平成12年4月には田代島に市営キャンプ施設「マンガアイランド」を、平成13年7月にはマンガミュージアム「石ノ森萬画館」をオープンさせ、同計画を着々と実現させてきた。

特に、マンガアイランドや石ノ森萬画館の設計・企画、建設にあたっては、当時石ノ森氏が代表を務めていた漫画家の親睦団体「マンガジャパン」から厚く協力を受け、里中満智子氏やちばてつや氏、矢口高雄氏、モンキー・パンチ氏、水島新司氏など著名な漫画家が実際に石巻市に訪れ、計画策定の機運を民間から盛り上げる活動に参画した。中には後々館長として石ノ森萬画館の運営に携わった方もいる。現在でも市は当該団体の賛助会員となっており、交流が継続している。

###### ■石ノ森萬画館 [文化観光拠点施設]

石ノ森章太郎氏を顕彰し、同氏の作品を中心にしつつも様々な作家の作品も展示紹介する総合的なマンガのミュージアムとして、平成13年7月23日にオープンした。館内は石ノ森氏の代表作であるサイボーグ009や仮面ライダー等の作品を立体的に展示し、各作品の世界観を体感できる「常設展示」と、様々な作家の作品を展示紹介する「企画展示」がメインとなっている。企画展示は、1年間に4～5回実施しており、一企画展につき2～3か月の期間、年間で合計10か月強の期間、実施している。令和5年6月時点で開催している「中村佑介20周年展」で89回を数える。また、約6,000冊の漫画本、約300本の映像が無料で楽しめる「ライブラリー」、マンガやアニメに関するワークショップを体験できる「マンガ工房」も兼ね備えている。さらに、オリジナルグッズを販売する「グッズショップ墨汁一滴」、北上川を一望できる「展望喫茶ブルーゾーン」も併設している。子どもから大人まで楽しめるミュージアムとして人気を博し年間約18万人、オープン以来370万人以上の観覧者が訪れている。



また、国内外のアニメファンの投票をもとに、一般社団法人アニメツーリズム協会が選定する「訪れてみたい日本のアニメ聖地」の施設部門では、聖地の一つとして認定を受けている。

計画当初から、文化的価値の創造による人材育成、都市空間・地域イメージの構築による魅力増進、産業振興などを目的として施設が作られており、石ノ森萬画館の指定管理者である街づくりまんぼうは街づくり会社を兼ね、現在は都市再生推進法人にも認定されている。

###### 【主な文化資源】

###### ■原画



石ノ森氏が生涯で描き上げた原稿は膨大で、作品の多さとジャンルが多岐に渡ることから「マンガの王様」と称された。また、平成20年1月には角川書店から『石ノ森章太郎萬画大全』が発行され、「1人の著者が描いたコミックの出版作品数（計770タイトル/500巻）が世界で最も多い」として「ギネス世界記録」に認定された。日本のマンガ文化の礎を築いたと言っても過言ではない石ノ森氏の原画は非常に価値の高いものであり、その原画を常に観ることができるのは世界中で石ノ森萬画館ただ1館である。開館時は約9万点の原画を収蔵したが、平成23年の東日本大震災で被災し、奇跡的に原画は難を逃れたものの、以降は石ノ森プロ

で保管するようになった。石ノ森氏の原画は定期的に展示替えをしているが、その都度受け渡しを行って入れ替えており、その時のテーマや原画の大きさにもよるが数十点を常に展示している。また、先述のマンガジャパン所属の漫画家とのつながりがあり、石ノ森漫画の筆致に精通している人物とのつながりがあることも文化資源の一つである。石ノ森氏の原画以外にも、震災後に自社で制作した石巻を題材にしたコミック・復興情報マガジン『マンガッタン』の原画835点、『マンガで知ろう！石巻史』の原画133点、石巻のオリジナルヒーロー『シージェッター海斗』の原画288点を収蔵している。

## ■イラスト色紙（原画）

マンガジャパン所属の漫画家をはじめ、企画展やイベントの実施により関係のできた大勢の漫画家から寄せられたイラスト色紙を144枚収蔵しており、不定期で入れ替えをして展示している。これらは石ノ森萬画館オープン時に寄せられたお祝いのも、東日本大震災被災時に寄せられたもの、石巻の食を表現したものなど内容が多岐に渡り、サイン色紙や色紙形式ではないメッセージ資料等も100点以上所蔵されている。



## ■石ノ森萬画館内に展示している精巧な造形物

石ノ森萬画館内では石ノ森作品に関する精巧な造形物を展示している。

- ・サイボーグ009の世界：9人のサイボーグ戦士をはじめとする主要キャラクター [11体]
- ・仮面ライダーの世界：歴代仮面ライダーマスク [41体]
- ・人造人間キカイダーの世界：キカイダー [1体]
- ・ホテルの世界：松田先輩、石ノ森ロボット [2体]
- ・シージェッター海斗の世界：作品世界のジオラマ [3点]
- ・がんばれロボコン：ロボコン、ガンツ先生 [3体]



## ■石巻マンガロード



石巻駅から中心市街地を通り石ノ森萬画館までに至る約1kmの区間を、「石巻マンガロード」と称して至る所にFRP製の石ノ森キャラクター像やブロンズ像等を設置している。石ノ森萬画館の開館に先駆けて平成11年に整備され、当初はサイボーグ009や仮面ライダーなどの5体だったが、徐々に増設し現在は32体のキャラクター像の他、マンガ時計や萬画神社、ベンチ、マンホール等も設置され「マンガのまち」としての雰囲気さをさらに高めている。

## ■JRマンガタンライナー

石巻市とJR東日本東北本部の連携事業として、仙台～石巻間を走るJR仙石線及びJR仙石東北ラインの列車の車体に石ノ森キャラクターをラッピングした「マンガタンライナー」を運行している。「仙石線マンガタンライナー」はI号とII号の2編成（各4車両）、「仙石東北ラインマンガタンライナー」は夢編成と風編成の2編成（各2車両）となっている。仙石線マンガタンライナーは毎週日曜日の決まった時間に運行しており、石巻駅到着時には石ノ森萬画館スタッフが出迎え、記念乗車券を配布している。当該列車は貸切イベント列車としても活用しており、これまでに声優によるトークイベント、アニソン歌手によるコンサート、キャラクターショーなどを開催してきた。



## ■マンガラッピングバス

(株)ミヤコーバスが運行する高速バスの車体にマンガのラッピングを施したバスを仙台～石巻間で運行。イラストレーターわたせせいぞう氏が田代島やかわまちエリアを題材にデザインした1号車と、石ノ森キャラクターが石巻の名所を紹介する2号車の2台が毎日運行している。



## 石巻マンガタンミュージアム構想

石ノ森萬画館構想の際、石ノ森氏が近くの丘から萬画館建設予定地の中州を見下ろした時に、中州の形がニューヨークのマンハッタン島に似ていることから「マンガタン」と名付けた。そして、石ノ森萬画館だけではなく「街全体をミュージアム」とする『石巻マンガタンミュージアム構想』を発案した。発案から20年以上経った今でもこの考え方にに基づき、(株)街づくりまんぼう主導でまちづくりを実践している。石巻駅が玄関口、マンガロードは展示の一部、商店街はミュージアムショップであり、飲食店はミュージアムのカフェやレストラン、街の人すべてがミュージアムのスタッフとして温かな気持ちで観光客や来館者を迎え、石巻を訪れた全ての方に「来てよかった」と思ってもらえることを目指している。



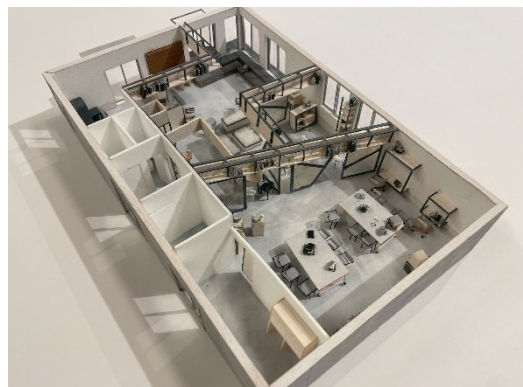
## ■石ノ森章太郎が生んだ石巻のヒーロー『シージェッター海斗』

石ノ森氏が遺したデザイン画をもとに、街づくりまんぼうと石森プロの共同プロジェクトとして平成16年に誕生した。石森プロ所属の漫画家・早瀬マサト氏によって漫画化された他、衣装や造形も制作しキャラクターショーも行っている。また、水木一郎氏、影山ヒロノブ氏、遠藤正明氏等によるテーマ曲、東映の仮面ライダー制作チームが手掛けた映像作品など、本格ヒーローに引けを取らないクオリティで展開している。石巻のオリジナルのヒーローとして独自に活用できる、唯一無二のコンテンツである。

## ■いしのまき・MANGA Lab. 「ヒトコマ」(マンガ・アニメ創作交流拠点)

漫画家やクリエイター、声優、俳優など、その時々で石ノ森萬画館で開催されている展示に関わる方を招聘し、トークショーやサイン会等の各種イベントを実施する交流スペース(令和5年10月オープン予定)。石ノ森萬画館の附帯施設として一体的に運用予定で、現在整備中の施設であり、石巻市内で指折りの集客力を誇るいしのまき元気いちばから徒歩2分程度、石ノ森萬画館から徒歩5分程度という立地を活かし、拠点周辺での集客・周遊を促す。

また、石ノ森萬画館の人的ネットワークを活用し、プロの漫画家やクリエイターを招聘したワークショップ会場としても使用し、イベントを目的とした観光客のみならず石ノ森萬画館のリピーター層や地元小中学生などの利用も念頭に置き、石ノ森萬画館の機能を補完する施設として運用する予定である。



■文化観光拠点施設の所在地全般の状況について

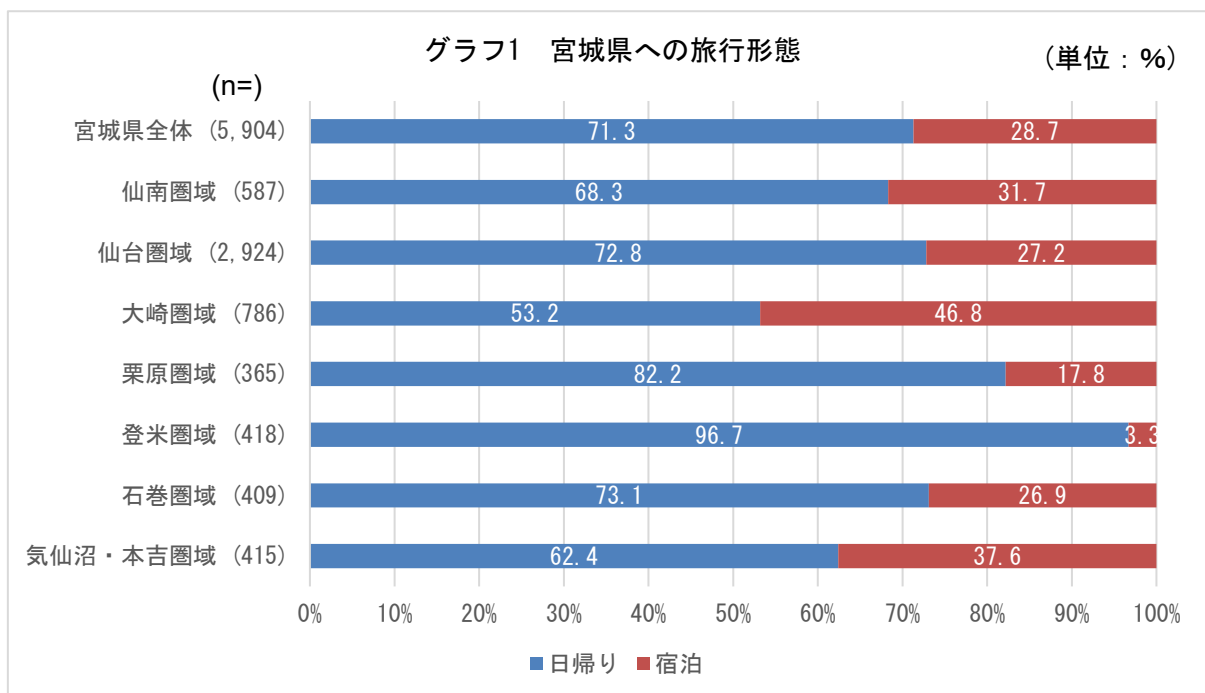
◎宮城県の観光客の動態

はじめに、宮城県の観光客動態の概要を示す。下記は、令和4年度に実施された宮城県観光客実態調査（以後、「令和4年度観光パラメータ調査」と呼ぶ）から宮城県及び石巻圏域を訪れた観光客の属性と行動についてまとめたものである。

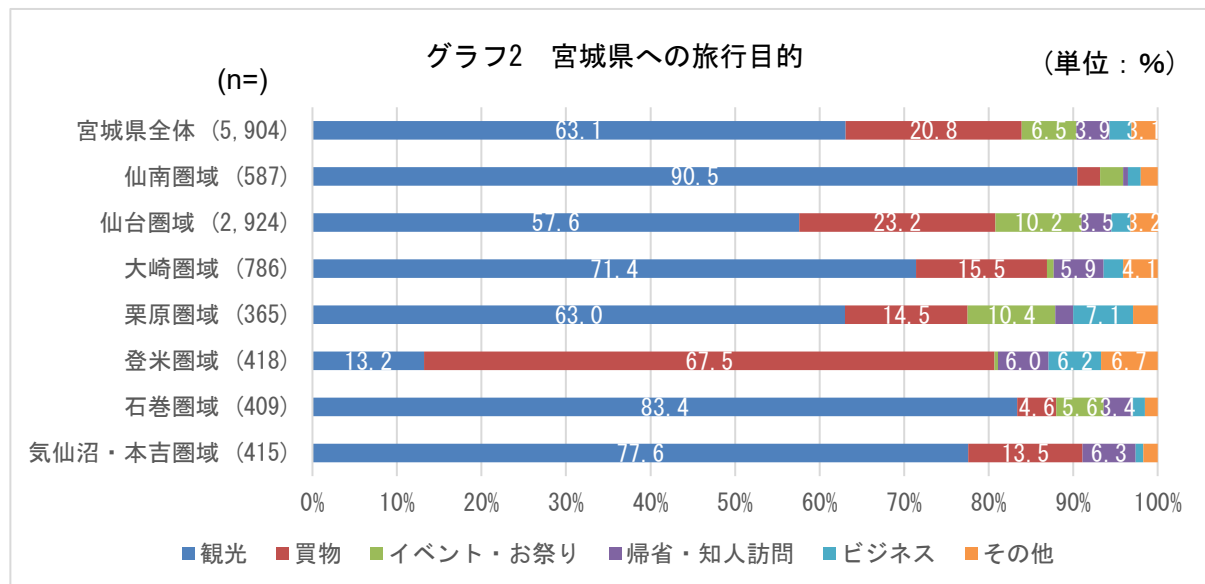
表1 宮城県を訪れた観光客の居住地及びその内石巻圏域を訪れた観光客の居住地（令和4年度）（単位：％）

	宮城	その他 東北	北海道	首都圏	北関東	中部	近畿	中国 四国	九州 沖縄
県全体 (n=5,901)	67.3%	15.0%	0.8%	10.4%	2.3%	1.9%	1.5%	0.2%	0.3%
石巻圏域 (n=409)	66.7%	12.4%	0.7%	13.0%	2.7%	2.2%	1.5%	0.7%	-

令和4年度観光パラメータ調査（宮城県観光客実態調査）より作成  
※端数処理の関係で合計が100%にならない



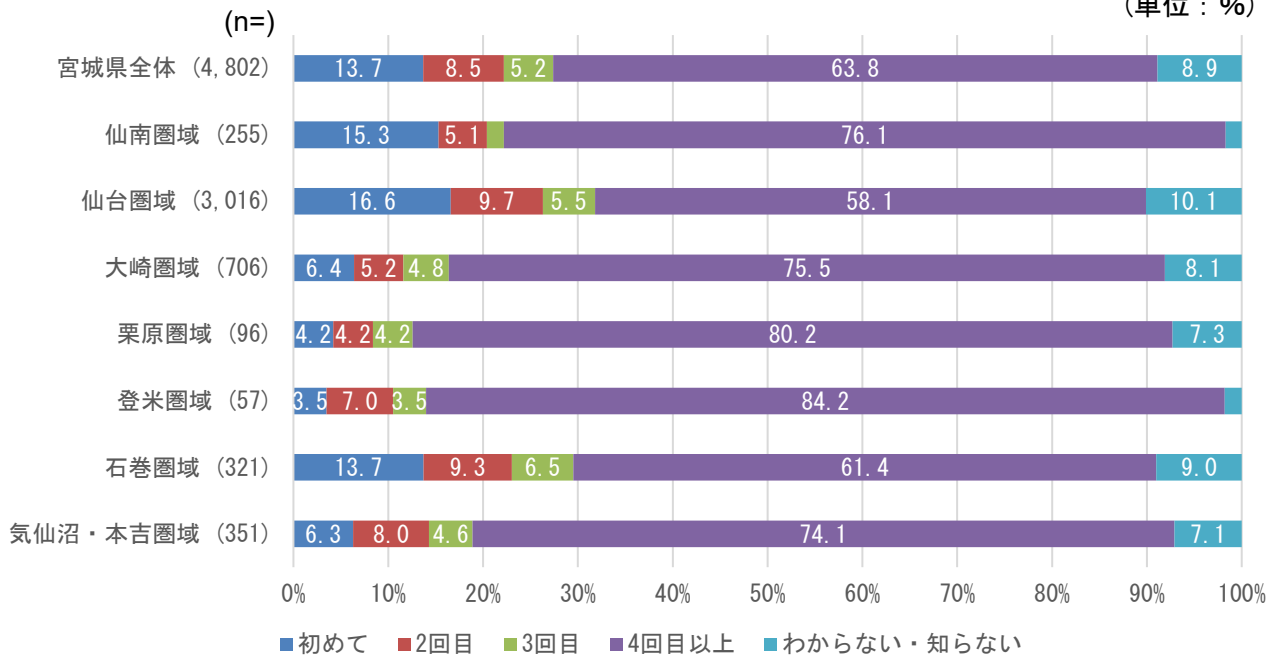
令和4年度観光パラメータ調査（宮城県観光客実態調査）より作成



令和4年度観光パラメータ調査（宮城県観光客実態調査）より作成  
※3%以下はラベル非表示

グラフ3 宮城県内各圏域への訪問回数

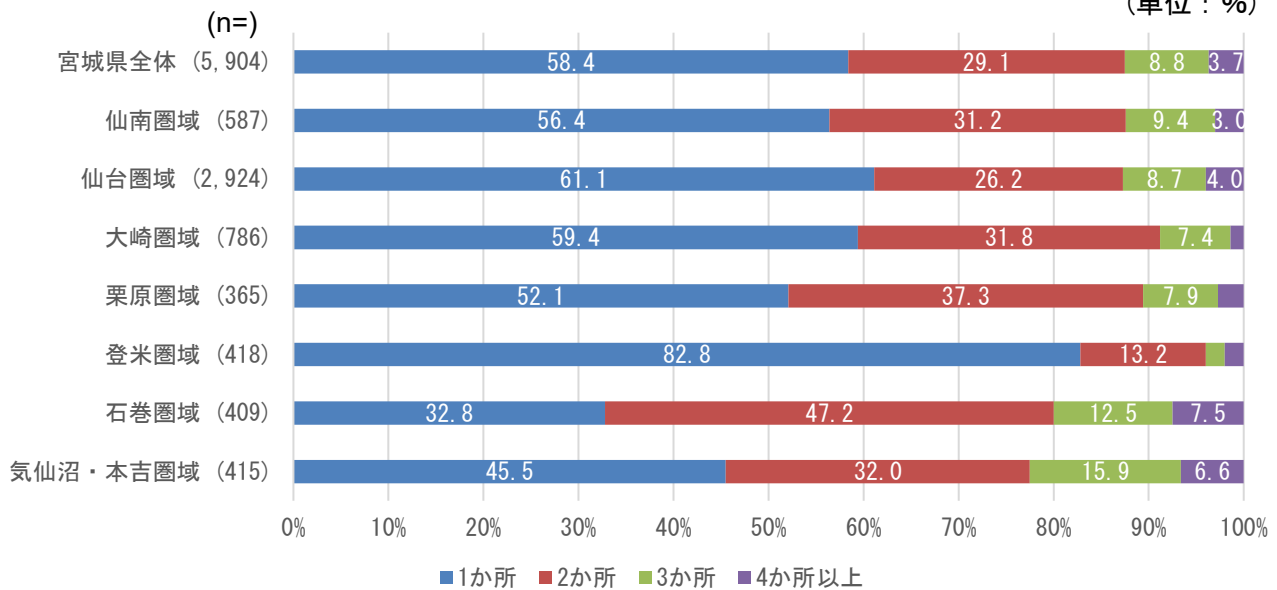
(単位：%)



令和4年度観光パラメータ調査（宮城県観光客実態調査）より作成  
 ※3%以下はラベル非表示  
 ※端数処理の関係で合計が100%にならない項目がある

グラフ4 圏域別立ち寄り観光地点数

(単位：%)



令和4年度観光パラメータ調査（宮城県観光客実態調査）より作成  
 ※3%以下はラベル非表示

表1及びグラフ1より、宮城県及び石巻市ではいずれも県内旅行者が7割を占めている。グラフ2~4より、宮城県の中でも石巻圏域は観光を目的に訪れる方の割合が高く、県内在住のリピーターが複数箇所を回遊している状況がうかがえる。

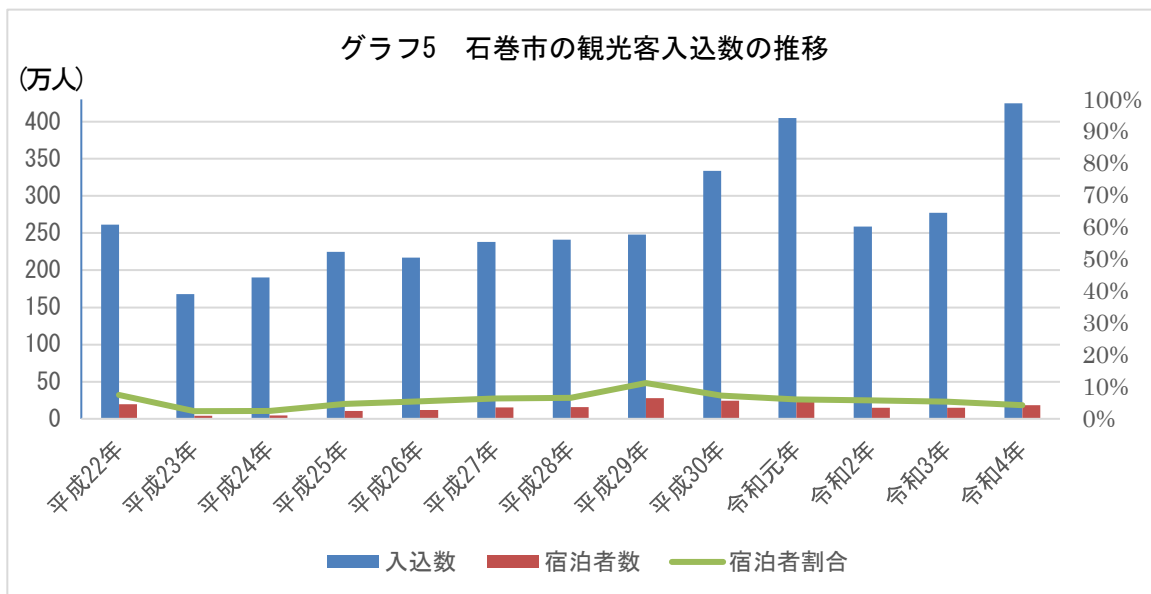
◎石巻市の観光客の動態

石巻市の観光客入込数について表2に示す。なお、表中の数値の推移をグラフ化したものがグラフ5である。また、石巻市の観光客を男女別の割合で表示したものがグラフ6、年代別の割合で表示したものがグラフ7である。

表2 石巻市の観光客入込数

年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
入込数	2,612,359人	1,677,324人	1,900,853人	2,245,620人	2,171,400人	2,380,009人	2,409,384人
宿泊者数	195,334人	39,318人	47,447人	105,620人	119,822人	151,619人	158,763人
宿泊者割合	約7.5%	約2.4%	約2.5%	約4.7%	約5.5%	約6.4%	約6.6%
年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	
入込数	2,481,019人	3,335,969人	4,046,953人	2,586,309人	2,773,778人	4,248,570人	
宿泊者数	277,624人	244,195人	246,599人	150,029人	149,412人	181,999人	
宿泊者割合	約11.2%	約7.3%	約6.1%	約5.8%	約5.4%	約4.3%	

石巻市観光統計より作成



石巻市観光統計より作成

石巻市は東日本大震災直前に年間で約261万人の観光客入込数を記録していたが、震災後はその65%程度の入込数となった。復興が進むにつれて回復傾向となり、イベントの再開や観光施設の復旧・新設により令和元年には約405万人を記録した。コロナ禍で再び落ち込んだものの令和4年は約425万人となり、コロナ禍前の令和元年を上回る観光客入込数となった。

なお、コロナ禍においても、入込数自体は震災直前の時期と同水準の数値を記録しており、復興期間に取り組んでいた誘客の取り組みが一定程度効果を発揮し入込数を維持できたものと思われる。震災以降に野外現代アートの祭典・Reborn-Art Festival やツール・ド・東北などの復興支援を契機としたイベントが開催され始めた他、いしのまき元気いちば、ホエールタウンおしか、道の駅硯上の里おがつなどの観光施設のオープン、震災遺構の整備などが重なり、観光客数が増加したと推測される。

一方、市全体の観光客入込数に対し宿泊者数の割合は平成29年を除き1割未満となっており、グラフ1でも示した通り、日帰り旅行が中心の傾向がわかる。平成29年はReborn-Art Festivalの第2回目が開催され、初回開催から観光客受入体制も整った内容で実施されたことに加え、市内では外国人対応できる宿泊施設が1件増となったこともあり、宿泊率が向上している。令和3年度に石巻市内で(株)ベルトラが実施した観光動態調査(以下、令和3年度観光動態調査という)によれば、石巻駅の利用者の6割から7割は宮城県内居住者で、旅行の前後に仙台市に滞在している履歴が見られ、仙台近郊から日帰りで石巻を観光していることが推測される。石巻圏観光推進機構が2019年に石巻圏域の宿泊旅行者に取ったアンケートによると、石巻市への来訪目的として最も多いのが「石ノ森章太郎の世界に触れる」(23.9%)で、次いで「食事・グルメ」(23.0%)であった。

以上より、石巻市における観光客動態の特徴として、震災以降の施設整備やイベントの新設によって観光客が増大している一方、県外からの観光客が少なく、仙台圏域及び近隣の市町からの日帰り観光客が多いという点が挙げられる。ただし、石ノ森萬画館については、宿泊者すなわち遠方からの観光客を呼び込むコンテンツとなっており、食事・グルメに対する需要も考えると、周辺の飲食店を含めて周遊を促進するハブ機能も持たせた文化観光を推進することが効果的と考えられる。

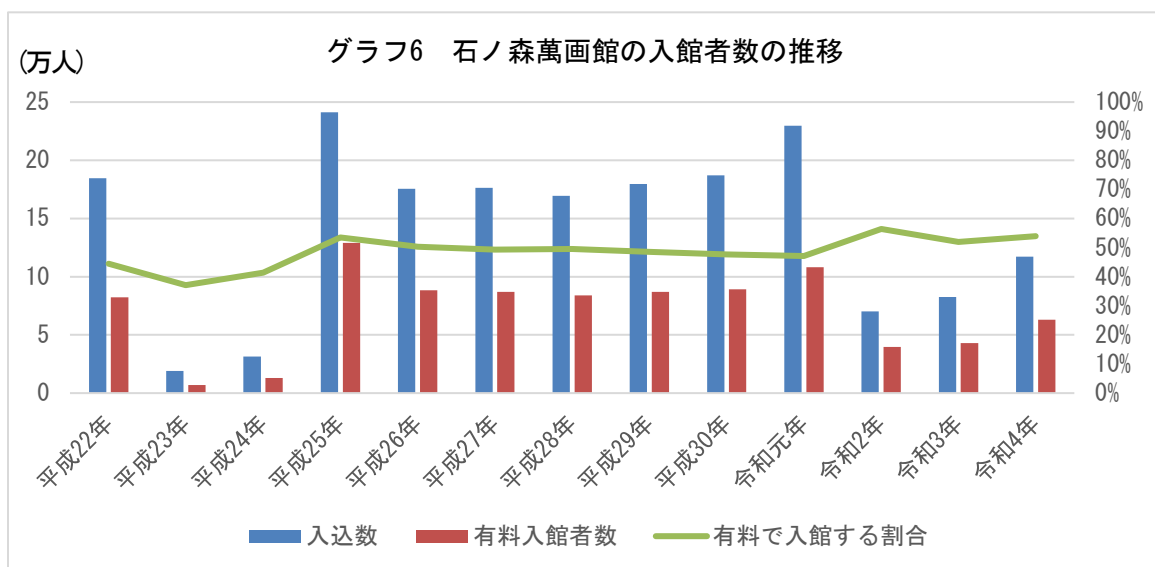
■文化観光拠点施設の状況について

石ノ森萬画館の入込数について表3に及びグラフ6示す。なお、表中の数値の推移をグラフ化したものがグラフ6である。

表3 石ノ森萬画館の入館者数

年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
入込数	184,714人	19,004人	31,321人	241,208人	175,435人	176,462人	169,465人
有料入館者	82,205人	7,054人	12,963人	128,956人	88,242人	86,955人	83,939人
有料観覧率	約44.5%	約37.1%	約41.4%	約53.5%	約50.3%	約49.3%	約49.5%
年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	
入込数	179,546人	187,150人	229,633人	70,179人	82,470人	117,138人	
有料入館者	87,035人	89,295人	108,257人	39,597人	42,840人	63,133人	
有料観覧率	約48.5%	約47.7%	約47.1%	約56.4%	約52.0%	約53.9%	

石巻市観光統計より作成

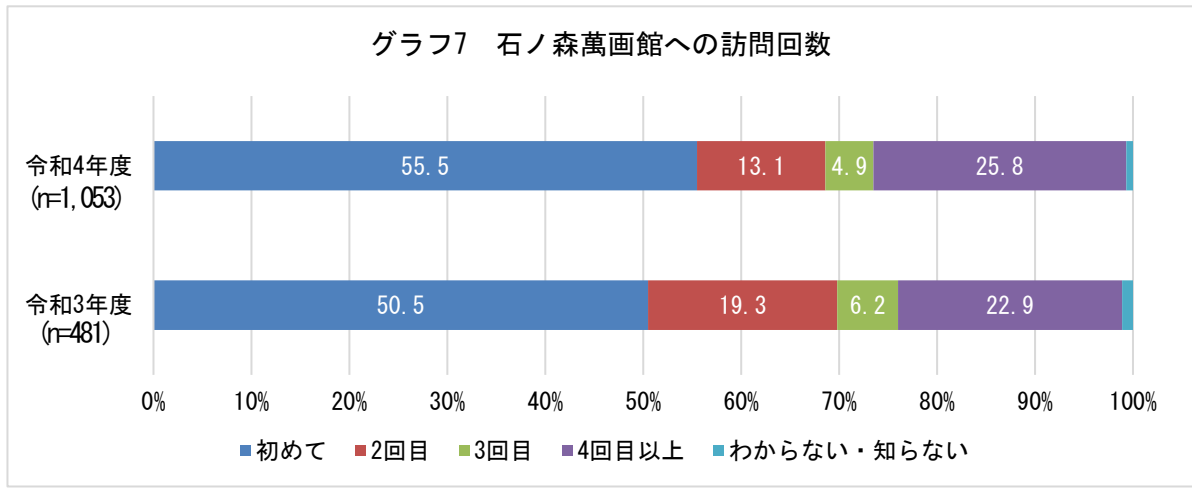


石巻市観光統計より作成

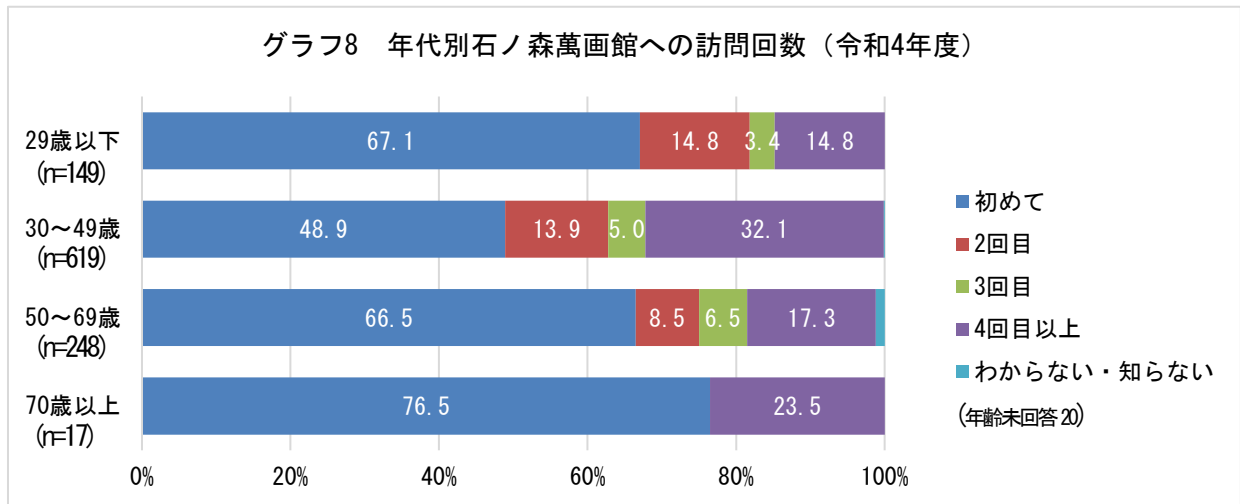
石ノ森萬画館は東日本大震災によって被災し約1年8か月休館し平成24年11月に再開した。再開直後の平成25年は入館者数が急増したが、その後は18万人前後を推移していた。令和元年は企画展「平成仮面ライダー展 20周年展」が人気を博し入館者が再び急増したが、令和2年以降はコロナ禍の影響により急減した。

石ノ森萬画館でコロナ禍前に実施したアンケート調査によれば、石ノ森萬画館の入館者は県外居住者が5割強であり、県内からの観光客が多い地域の傾向とは異なる結果となった。また、石ノ森萬画館における有料入館者の割合は、震災以降微減傾向にあったがコロナ禍以降は5割を超えてきており、展示観覧に高い意欲のある層が来場していると想定される。

令和3年度及び4年度の観光パラメータ調査によると(グラフ7)、石ノ森萬画館の入館者のうち初めて訪れた方の割合は5割を超えている。これは県内の観測地点の中で最も高い数値である。この要因については、「ゼルダの伝説」、「ドロヘドロ」、「ミニ四駆」、「十二国記」など発売以来コアなファンに根強い人気を持つ作品の企画展示を実施したことで、訪問意欲の高い層を刺激できたことが考えられる。また、令和3年度に石ノ森萬画館が開館20周年を迎え、記念セレモニー等の事業を実施したことでメディアや漫画家のSNSなどを通じて石ノ森萬画館の活動が周知されたこと、石ノ森氏原作漫画を題材としたアートアニメーション「変わるまち、変わるまち、石巻。feat. ジュン」(現在は「ジュン～春の針～」のタイトルで同館映像ホールにて放映)を制作し、「映文連アワード2022」でグランプリを受賞したことなどから石ノ森萬画館の知名度が向上したことなども要因と考えられる。



令和4年度観光パラメータ調査（宮城県観光客実態調査）より作成  
※3%以下はラベル非表示



令和4年度観光パラメータ調査（宮城県観光客実態調査）より作成  
※3%以下はラベル非表示  
※端数処理の関係で100%にならない項目がある

石ノ森萬画館への訪問回数（令和4年度）を年代別に見ると、30～40代のリピート率が他の年齢層に比べて高く、アンケートの母数としても最多の人数であることから、当該年代層が石ノ森萬画館の主な利用者層と考えられる。

以上の分析より、石ノ森萬画館は宮城県において県外居住者を集客できる数少ない施設の一つであり、30～40代のリピーターを主な利用者層としつつも、企画展示によって新規顧客を拡大している観光施設といえる。

### ■外国人観光客の動向について

#### ◎宮城県全体における外国人宿泊者の動向

公表済みの宮城県の観光統計より、宮城県を訪れた外国人宿泊者数について表4及びグラフ11に示す。なお、表中の「観光目的の宿泊者数」とは「『観光レクリエーション目的』の宿泊者が50%以上の宿泊施設の延べ宿泊者数」を指し、引用元で「観光目的の宿泊者が50%以上」という項目で表記されている数値である。

表4 宮城県の外国人宿泊者数

年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
延べ宿泊者数	159,490人	53,520人	90,330人	106,600人	117,150人	190,610人	199,290人
観光目的の宿泊者数	73,340人	24,520人	34,400人	33,240人	37,470人	61,630人	63,500人
宿泊者中の観光目的率	約46.0%	約45.8%	約38.1%	約30.2%	約32.0%	約32.3%	約31.9%
年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	
延べ宿泊者数	264,470人	402,110人	563,040人	131,270人	49,490人	未発表	
観光目的の宿泊者数	86,500人	113,920人	159,650人	44,650人	14,280人	未発表	
宿泊者中の観光目的率	約32.7%	約28.3%	約28.4%	約34.0%	約28.9%		

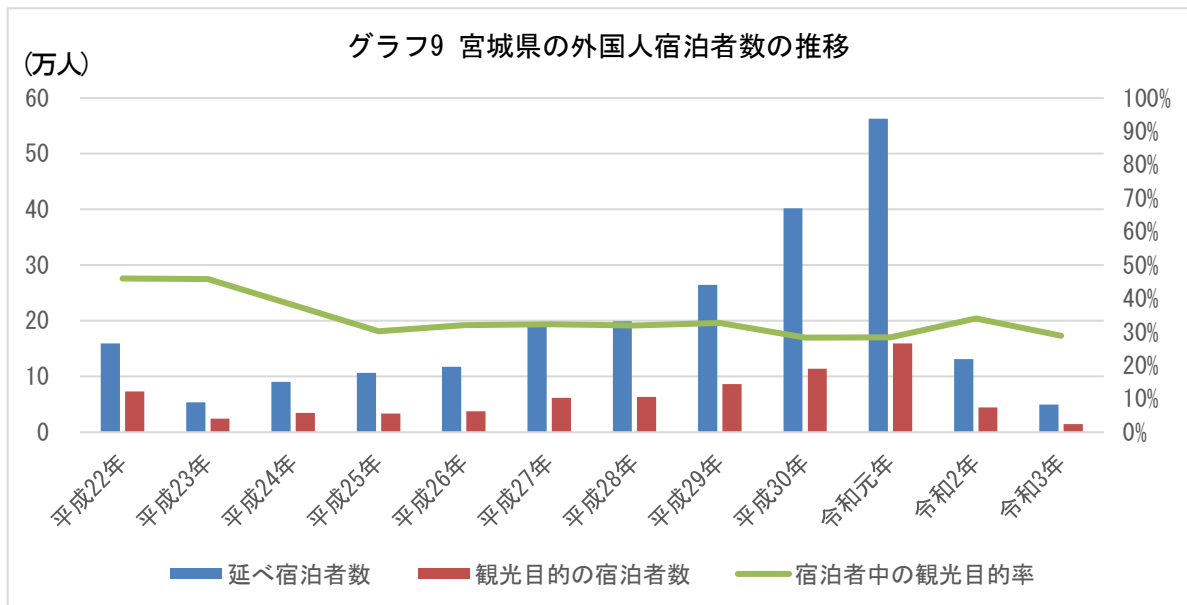
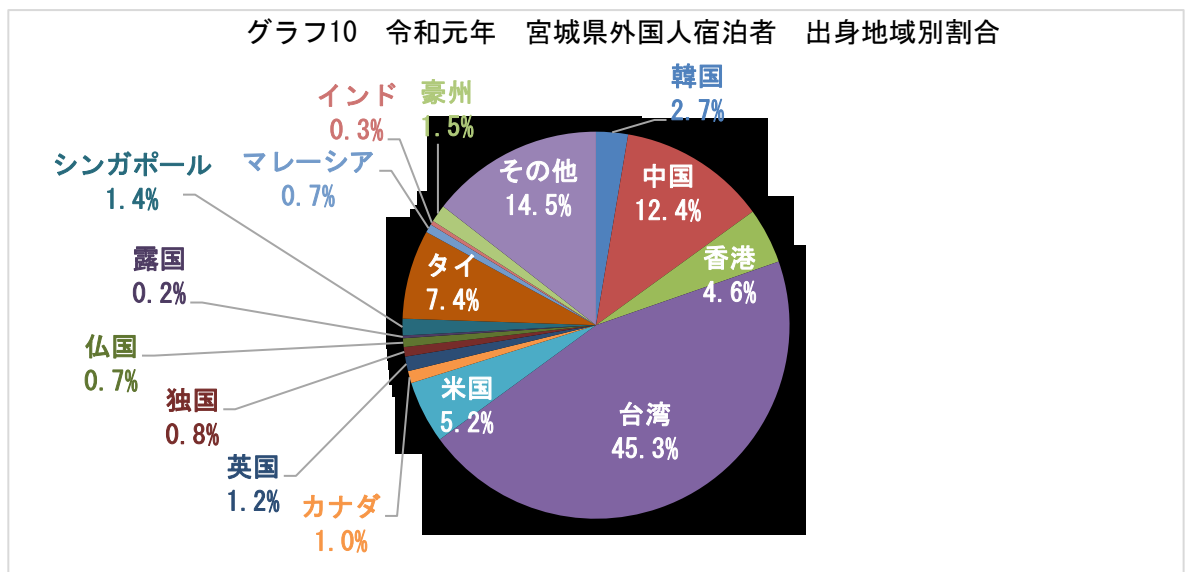


表4、グラフ9ともに宮城県観光統計より作成

宮城県における外国人観光客宿泊者の数値は、東日本大震災以降増加傾向にあり、令和元年度には50万人を超えた。一方で、観光を目的に宿泊する割合は横ばいとなっている。また、外国人宿泊者を出身地域別にグラフ化すると以下のようになる。



宮城県観光統計(令和元年版)より作成

アジアの来訪者が多く、中でも台湾からの旅行者が5割近くを占めている。仙台空港と台北との間で直行便が就航しており、宮城県としても台湾で開催される日本旅行博に例年ブース出展して観光プロモーションを実施していることなどがその要因の一つとして考えられる。石巻市も台北での旅行博に同行して、観光パンフレットを配布したり、石ノ森萬画館で実施しているものと同様の缶バッジを制作するワークショップ等を開催したりしている。

◎石巻市における外国人宿泊者の動向

石巻市の統計より、本市を訪れた外国人宿泊者数について表5に示す。

表5 石巻市の外国人宿泊者数

年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
延べ外国人宿泊者数	784人	207人	144人	546人	418人	1,055人	1,497人
延べ宿泊者数(市全体)	195,334人	39,318人	47,447人	105,620人	119,822人	151,619人	158,763人
市全体宿泊者数に対する外国人宿泊者率	約0.4%	約0.5%	約0.3%	約0.5%	約0.3%	約0.7%	約0.9%
年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	
延べ外国人宿泊者数	5,100人	1,378人	2,429人	827人	699人	493人	
延べ宿泊者数(市全体)	277,624人	244,195人	246,599人	150,029人	149,412人	181,999人	
市全体宿泊者数に対する外国人宿泊者率	約1.8%	約0.6%	約1.6%	約0.6%	約0.4%	約0.3%	

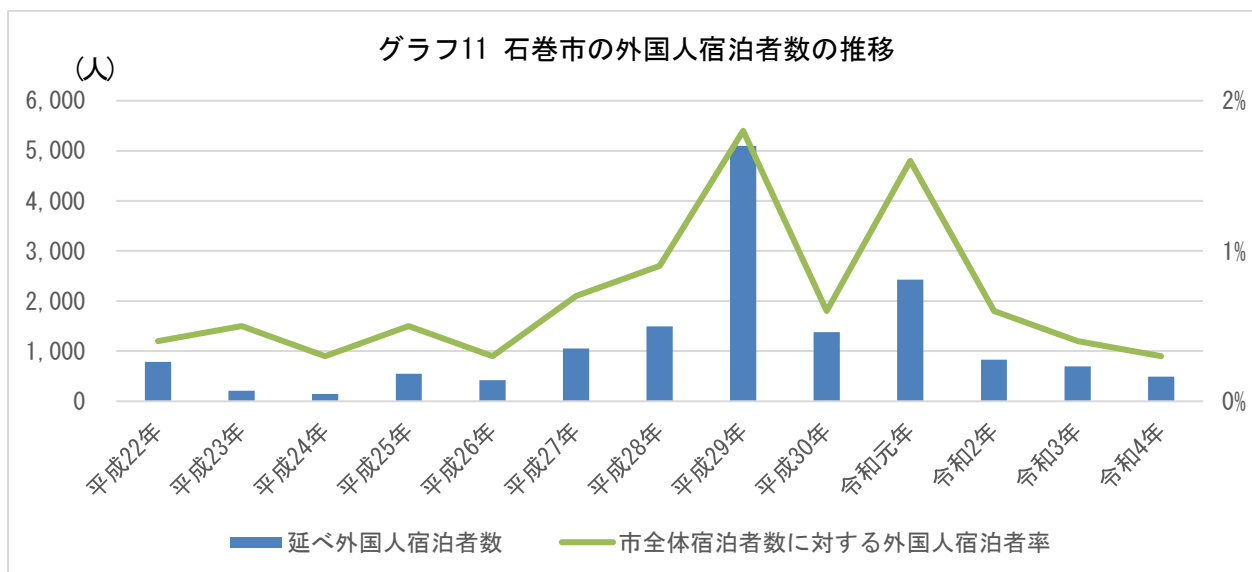


表5、グラフ11いずれも宮城県観光統計より作成

石巻市における外国人宿泊者数割合は全体の宿泊者数に対して1%程度で推移しているが、外国人宿泊者数はコロナ禍前までは増加傾向にあった。

■石巻市の観光動態のまとめ

宮城県や石巻圏域の動向も含めて石巻市の観光動態として、日帰りの県内旅行者が多いという点はあるものの、市内施設の復興と併せて観光客数が伸びてきたことから、「復興」をキーワードとした観光需要があったと言えるだろう。一方で、石ノ森萬画館は県外旅行者の集客拠点としての役割を果たしていた。海外の観光客については全体に占める割合は小さいものの、台湾を中心に増加傾向にあった。

現在は復興需要が落ち着き始めており、またコロナ禍もあり、石ノ森萬画館を中核にいしのまき元気いちばなど食関連施設との周遊をより強化し、急増するインバウンドにも対応していく必要があると考えられる。

### 3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

石ノ森萬画館の類似の文化観光施設として、石ノ森章太郎ふるさと記念館（宮城県登米市）、横手市増田まんが美術館（秋田県横手市）、新潟市マンガ・アニメ情報館（新潟県新潟市）、京都国際マンガミュージアム（京都府京都市）、水木しげる記念館（鳥取県境港市）、北九州マンガミュージアム（福岡県北九州市）などが挙げられる。

#### ■石ノ森萬画館

開館年：2001年

施設の内容：石ノ森章太郎の作品や世界観をジオラマ中心に楽しめる博物館

運営者：株式会社街づくりまんぼう

蔵書数：約6,000冊

出典：石ノ森萬画館HP <https://www.mangattan.jp/manga/>



#### ■石ノ森章太郎ふるさと記念館

開館年：1998年

施設の内容：石ノ森章太郎の功績を顕彰し、漫画を活用した生涯学習施設

運営者：登米市

出典：石ノ森章太郎ふるさと記念館HP

<https://www.city.tome.miyagi.jp/kinenkan/index.html>



#### ■横手市増田まんが美術館

開館年：1995年

施設の内容：矢口高雄の偉業を記念し建てられた、漫画の原画をテーマとした美術館

運営者：一般財団法人 横手市増田まんが美術財団

蔵書数：約25,000冊

出典：横手市増田まんが美術館HP <https://manga-museum.com/>



#### ■新潟市マンガ・アニメ情報館

開館年：2013年

施設の内容：漫画やアニメの魅力を楽しく学べる文化施設

運営者：にいがたアニメ・マンガプロジェクト共同体

蔵書数：約10,000冊

出典：新潟市マンガ・アニメ情報館HP <http://museum.mman.jp>



#### ■京都国際マンガミュージアム

開館年：2006年

施設の内容：漫画に関する資料が集まる日本最大の漫画博物館

運営者：京都国際マンガミュージアム運営委員会、京都精華大学

蔵書数：約300,000冊

出典：京都国際マンガミュージアムHP <https://kyotom.jp>



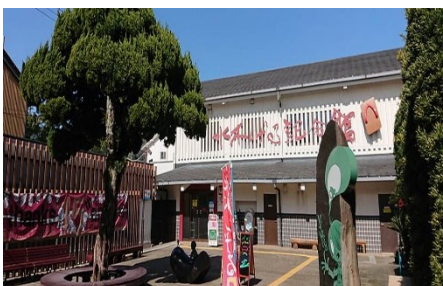
#### ■水木しげる記念館

開館年：2003年

施設の内容：水木しげるのロードと共に、水木しげるの作品や収集した妖怪等のコレクションが楽しめるミュージアム

運営者：境港市

出典：水木しげる記念館HP <http://mizuki.sakaiminato.net/>



## ■北九州マンガミュージアム

開館年：2012年

施設の内容：北九州市ゆかりの漫画家を中心に、「見る、読む、書く」をテーマとした様々な展示や体験ができる施設

運営者：北九州市 市民文化スポーツ局

蔵書数：約 70,000 冊

出典：北九州マンガミュージアム HP <https://www.ktqrm.jp/>



同じ東北地区に属する類似施設として、秋田県横手市の増田まんが美術館と石ノ森萬画館を比較する。

## ■横手市増田まんが美術館について

- ・まんが美術館は、マンガをテーマにした全国初の美術館（公民館機能を含む）として平成7（1995）年に開館した。
- ・横手市出身の漫画家・矢口高雄氏を含む11名の「大規模収蔵作家」をはじめ110名の作家のマンガ原画45万点が収蔵されている。
- ・これらのマンガ原画をデジタルアーカイブし、二次的利用による文化資源を発信する日本で唯一の「マンガ原画の収蔵」に特化した美術館である。
- ・文化庁メディア芸術連携基盤整備推進事業を受託し、「マンガ原画アーカイブセンター」の事務局として国内のマンガ原画の保存活動の中核を担っている。
- ・増田まんが美術館では、6か国語（日、英、仏、韓、中 [繁・簡]）のパンフレットを作成・配布している。
- ・館内の誘導サインは4か国語（日、英、中 [繁・簡]）で表記されている。
- ・施設内のマンガライブラリーでは25,000冊の漫画本を所蔵し、来館者はそれらを自由に読むことができる。
- ・ワークショップ専用ルームがあり、毎週土日、祝日には現役漫画家の専門スタッフがマンガ教室やワークショップを開催している。

## ■増田まんが美術館と比較した場合の石ノ森萬画館の強みと弱み

### <強み>

- ・石ノ森萬画館は、石ノ森章太郎氏の多様で広範なジャンルの作品を紹介・展示することを通じてマンガ文化を伝える施設であるが、立体的な作品展示によって作品世界に没入することができるようになっている。
- ・石ノ森氏が世に送り出した作品数が多く、広く知られている作品が多い。特にメイン展示の一つである仮面ライダーシリーズは現在でも放送しており、国民的ヒーローとして人気を博している。
- ・石ノ森萬画館建設時の市民有志と石ノ森氏を中心とした漫画家たちによる市民運動によって生まれた、漫画家や出版関係者等との強力なネットワークが現在も続いている。
- ・交通アクセスが良く、県外、海外からの誘客がしやすい。

### <弱み>

- ・石ノ森萬画館は平成13（2001）年に開館し、東日本大震災の津波被害により平成24（2012）年に一部展示リニューアルをしているが、開館当初から変わっていない展示が多く、展示の陳腐化が著しい。
- ・施設の有効面積に対し、常設展示、企画展示、映像ホール、ライブラリー、グッズショップ、カフェ等多くの機能が詰め込まれており、各々のスペースが狭く活用方法が制限される。
- ・原画の展示スペースが限られ、原画の展示点数が圧倒的に少ない。
- ・マンガ創作の専門的な教室やワークショップを実施できるスタッフが不在かつ実施できる場所がなく、マンガ文化の普及、教育活動の取り組みという面で遅れをとっている。

## 3-2 課題

### 課題1 現在の来館者のニーズに合わせた文化資源の活用ができていない

- ・石ノ森萬画館の常設展示は「石ノ森作品の世界観を体感する」ことをコンセプトに、ジオラマ（モニュメント）展示など作品をダイレクトに伝える内容となっているが、開館から22年の間にリニューアルされていない展示が多くあり、リピーターにとって「陳腐化したコンテンツ」となっている。
- ・一方、デジタルデバイスの普及・進歩とともに、「原画」などの紙媒体の文化資源は時間の経過とともに資料的価値を増すが、原画を多く展示したり間近で見られたりできるような施設の仕様になっていない。
- ・石ノ森氏の著作はジャンルが多岐にわたり、描き上げた原稿も膨大な数に上るが、展示スペース等の問題から原画の貴重さやジャンルの多様さなどの特徴を活かした展示を実施できていない。
- ・石ノ森氏は手塚治虫氏と並んで日本漫画界を代表する人物であるが、石ノ森氏が亡くなってから25年が経ち石ノ森氏

の作品や功績を知らない世代が増えてきている。常設展示では、ジオラマにより直感的に観てもらおうコンセプトを従来取っていたことから、石ノ森氏を知らない世代の増加によって展示解説が不足する事態に陥り、石ノ森氏の作品世界のどのような点が特徴的であるのか、伝えきれなくなっている。

- ・現在、石ノ森萬画館では音声ガイドを導入しており、QRコードをスマートフォンで読み取ることにより、人気声優の山寺宏一氏の読み上げる音声とテキスト情報で展示解説を無料で楽しむことができるが、入館者の関心を喚起できておらず、利用率が低い。
- ・石巻市は「マンガのまち」「石ノ森萬画館のあるまち」として県内外に認識されつつあるが、石ノ森萬画館のマンガの所蔵冊数が約6,000冊と類似施設の中では圧倒的に少なく、ライブラリーが十分に活用されていない。

### 課題2 新規顧客の掘り起こしにつながる文化資源の活用が不足している

- ・石ノ森萬画館の主たる来館層は30～40代のファミリー層や50代であるが、より下の世代にプロモーションする場合は、石ノ森作品自体を見知っている人でなければ、十分なPR効果が発揮できない状況である。
- ・石巻市を訪れる観光客は県内からの来訪者が6割以上を占めている。(表1) 今後、石巻市及び宮城県において急激な人口減少が想定される中で、石巻市の観光マーケットを維持・発展させていくためには、県外からの新規顧客の誘客を増やしていくことが必要である。
- ・石ノ森萬画館は市内施設の中では県外からの来訪者の割合が高く、県外からの観光客増加を進めるための重要な拠点施設であるが、展示コンテンツの課題(課題1)や、市内の他施設や商店街との回遊性の課題(課題4)などから、県外を中心に新規顧客の来訪者の呼び込みが頭打ちとなっている状況である。
- ・石ノ森萬画館では、企画展は年間に4～5回実施しているものの、特定の企画展の時のみ来場する方が多く、新規顧客として常設展示までの観覧誘導やリピーターとしての複数回の来館まで結びつけきれしていない。

### 課題3 施設設備が陳腐化しており現代のニーズに合致した施設使用ができていない

- ・石ノ森萬画館には、展示エリア(2階)と交流エリア(1階及び3階)があり、ライブラリー・マンガ工房(ワークショップスペース)・カフェスペース等を備える交流エリアは無料で利用できる。交流エリアは、マンガ文化に触れることのできる場所として気軽に入出りできることを目指していたが、近年は表3で示唆されるように、有料観覧者の割合が高まりつつあり、相対的に交流エリア利用者の割合が減っていると考えられる。
- ・これまでは展示の観覧者を交流エリアに誘導するように努力していたが、それだけにとどまらず、カフェの充実などを図り、交流スペース自体に人を呼び込むようにしてそこから展示に誘導するなど、双方向の誘導で来館者数を増やしていく必要がある。
- ・現在のカフェスペースは総入館者の13%(23,400人/年)程度であるが、26席しかなく、繁忙時は席数の不足により1日およそ10組が退店してしまうなど機会損失が生じている。この要因の一つは、調理場や洗い場、バックヤードが狭く、調理・作業スペースが十分に取れないことから、来店者の回転や作業効率をあげる工夫が実施しにくいことで、料理提供の遅滞、来店者の滞留などが発生している。
- ・また、作業効率を考えコラボメニューに飲料メニューが増えており、誘客のためには提供商品の質を上げるとともに食事メニューの増加も欠かせないが、メニュー増加には作業スペースの狭さが支障となる。
- ・原画の管理徹底がシビアに問われる社会情勢となっているが、展示室内を管理している空調機器、管理システムは22年前の開館時に導入したもので、館内を一括で管理しエリアごとの細かい湿度調整ができないものとなっている。現状の空調では湿度の変化に敏感あるいは弱い素材の資料は借用できない状況である。
- ・また、館内の空調設備は3階の交流エリアのほか、1階の映像ホール、通路やエントランス、グッズショップ等に至るまで一体的に湿度管理されており、エリアごとに湿度調整ができないため、来館者から「暑すぎる」または「寒すぎる」といった声が寄せられることもあるなど満足度を下げる要因となっている。

### 課題4 中心市街地エリアの滞在時間延長につながる取り組みが不足している

- ・令和3年度観光動態調査、令和4年度観光パラメータ調査より、石ノ森萬画館は観光の目的地として認識され実際に県内外から集客しているが、石巻マンガロードや周辺の飲食店などを結びつけた滞在プランや「泊まってみたい」と思える夜のコンテンツ(ナイトエコノミー)が不足していることから、石巻市内に宿泊する観光客数が少なく、消費活動が小さくなっている。
- ・全国を巡回している企画展示は、年々展示品の点数が多くなるなど大型化している傾向がある。石ノ森萬画館の企画展示室は平成初期に設計されたことから200㎡(約60坪)ほどと手狭であり、現代の巡回展示の物量に対応できないケースが多い。そのため、企画展示そのものの集客力に頼るだけでなく、街なかの周遊企画と併せて総合的に館の利用者を増やしていく必要がある。

### 課題5 海外からの観光客の呼び込みと受け入れができていない

- ・石巻市は観光客に占める海外からの来訪者の割合が小さい。この原因としては、外国人観光客向けの表示や音声案内

- が市内観光施設等に十分でないことなど、外国人観光客受け入れのためのインフラが整っていないことが考えられる。
- ・外国人観光客の動態についてデータが不足しており、情報発信やコンテンツづくりのために、ターゲットとする国・地域やニーズの把握が十分にできていない。
  - ・石ノ森萬画館内は展示について音声ガイドに英語機能を導入しているものの、中国語やフランス語等、他に来館が想定される層の言語に対応できていないこと、外国人観光客に対して音声ガイドが無料で使用できることを周知する表示が不足していることから外国人観光客に文化資源の魅力を伝えきれていない。

### 3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

#### ■ ターゲット層

本計画のターゲットとして(1)～(4)を定め、それぞれの層が拠点施設を訪れることで、後述のように地域への好影響を創出する。

#### (1) 石ノ森作品に興味のある既来館者層 (30～40代のファミリー層、50代男性)

- ・現在の石ノ森萬画館の主要な来館者層は、①子どもが仮面ライダーシリーズを視聴している30～40代のファミリー層、②幼少期に石ノ森作品に触れたことのある50代の男性である。
- ・その強い動機づけとなっているのが仮面ライダーであり、当該層の利用率や消費単価をより向上させるため、仮面ライダーを中心とした常設展示を充実化し、より足を運んでいただける施設とする。
- ・石ノ森作品は全770タイトルあるともされ、漫画やキャラクターごとにファンクラブが設置されている場合もあることからファンの裾野が広く、多岐にわたっている。一方、常設展示は展示面積が石ノ森氏の作品数に比して小さく、カバーしきれていない漫画・キャラクターが存在し、来館者のリピート意向や石ノ森作品のファンのニーズに十分に答えられてこなかった。
- ・このことから、常設展示を改修しこれまでニーズがありながらも展示の無かったコンテンツを追加することによって、これまで動機付けできていなかった層の来訪を図る。
- ・石ノ森マンガの原画について、展示ケースを改修することによってグレア対策を施して見やすくし、仮面ライダー等が原作ではどのように描かれていたのか展示することによって、来館者層の満足度向上を図る。

#### (2) マンガ・アニメに興味のある20～40代女性

- ・石ノ森萬画館では、石ノ森作品に触れたことのある層に加えて、企画展示の内容によって来館者の属性が変化するという変動的なターゲティングが行われてきた。
- ・本計画では、新たに「マンガ関連分野に興味のある20～40代女性」をターゲットに定め、当該層を対象に一環とした取り組みを推進することで新たな利用者層の開拓を図る。
- ・マンガ・アニメなどの玩具市場においては、20代以上の女性が購買者の4割を占めるというデータも示されており（矢野経済研究所「玩具市場白書」2016）、当該世代の購買意欲の高さがうかがえる。実際に石ノ森萬画館においても、グッズショップにおける若い世代の女性の購入単価が高く、声優や俳優を招聘したイベントにおいても、参加申込者における当該層の割合は高い。
- ・グッズを多く購入するということは、見方を変えれば「好きなものに対する熱量が高い」とも捉えることができる。マンガ・アニメに興味のある20～40代の女性（いわゆるF1層）を対象に、声優や俳優等を招いたステージイベントの開催や関連グッズの開発・販売等を実施し、それらをフックに館内展示にも誘導することで、新たな客層の取り込みを図る。

#### (3) 東北に関心のある台湾人

- ・ターゲットの絞り込みにあたってはJNTO「訪日旅行誘致ハンドブック 2022」を参考に、訪日リピート率が高く東北地方に関心を持ち、特定のテーマに絞った訴求方法が効果的と考えられる台湾人をターゲットとする。
- ・台湾は、宮城県が観光プロモーションを積極的に展開している地域の一つであり、仙台空港では台北との直行便が就航しているなど既に多くの観光客が宮城県へ訪れている。石巻においては、空港から近い仙台・松島圏域と差別化した魅力を打ち出すことで集客に努める。
- ・近年台湾では日本のアニメや特撮作品が放送され、幼少時代からマンガ・アニメなどの日本のサブカルチャーに接する人が増えており、石ノ森作品に対する潜在的な興味関心は高いと考えられる。

#### (4) マンガ・アニメの制作に興味のあるフランス人

- ・「マンガ・アニメ等の制作に興味のあるフランス人」をターゲットに定め、石ノ森萬画館が例年行っているインターンプログラムやフランスにおける国際マンガ祭等での出展を通じて、新たな利用者層の獲得を図る。
- ・フランスは日本のマンガ・アニメ人気が高く、日本の出版関連企業やマンガ・アニメ教育機関が多く進出している。石ノ森萬画館は、南部アンブレム市にあるヒューマンアカデミー・ヨーロッパ校と提携し、例年インターン生を受け入れており、毎年申込み倍率は他のプログラム（出版社や漫画家へのインターンシップなど）に比べて非常に高い。

- ・インターン生へのヒアリングから、石ノ森作品をはじめとしたマンガ文化への興味関心に加え、石ノ森萬画館が持つ多くのクリエイターとのネットワーク、日本食（海産物など）や震災、漁業・農業体験など石巻市の多様な魅力が動機となっていることがわかっている。

### 取組強化事項1：来館者のニーズに合った展示内容のブラッシュアップ（課題1関連）

- ・石ノ森萬画館は平成13年に開館したが、22年が経過した今でも当時から更新されていない展示が多くあり、展示の陳腐化が著しい。
- ・集客性を高め来館者の満足度を上げるために、体験型展示コンテンツや原画展示設備の充実化、知名度の高い作品の展示追加など来館者のニーズに合わせた展示リニューアルと、それらを活用したソフト事業を行っていく。

#### 【基本的な方向性】

##### (1) 常設展示の充実化

- ・石ノ森作品をリアルタイムで知らない世代に作品を身近に感じてもらい、既来館層により楽しんでもらうために、体験型展示コンテンツの充実化を図る。具体的には、毎年新たに登場する仮面ライダーのマスクや変身ベルト等の展示に加え仮面ライダーが駆けるバイク「サイクロン号」に実際に乗れる体験型アトラクションのリニューアルを行う。
- ・仮面ライダーと並ぶ人気の特撮作品「スーパー戦隊シリーズ」の原点であり、高い知名度を持ちながらこれまで展示が無く、既来館層からも展示希望のある作品「秘密戦隊ゴレンジャー」のマスクやイラスト等の展示を新たに加える。
- ・音声ガイドの周知を充実させ、来館者が石ノ森作品の特徴や制作背景などを理解できるようにする。

##### (2) 原画の効果的な活用

- ・制作分野においてデジタル化が進む中、「原画」の希少性と歴史的価値が高まっている。また、最近では原画の保存上の問題から原画の展示をする機会も減り、原画そのものを観る機会も少なくなってきた。
- ・石ノ森萬画館の常設展では、いつ来館しても石ノ森氏の原画が展示されているが、現状の原画展示コーナーは観覧者と原画との距離があり、ガラスに照明が反射して観にくい状態になっている。より原画を観やすくするために原画との距離を縮め、グレアの少ないガラスに改修し、石ノ森氏が描く原画の素晴らしさを体感していただくようにする。
- ・石ノ森氏は数多くの作品を世に送り出しており、原画もまた膨大な量が保存されている。石ノ森氏の原画は繊細な筆致で表現豊かに描かれており、観る人を作品世界に引き込むものである。この文化資源的価値の高い原画をできるだけ多く展示することが来館者の満足度向上に有効と考えられるが、現物を数多く展示することはあまりに作品数が多いため困難である。そこで、原画の展示に合わせてPCを用いたアーカイブコーナーを設置し、展示室では観ることができない原画も画面上で観ることができるようにする。

##### (3) 話題性、集客性のあるコンテンツを用いて「石巻にしかない」企画を実施

- ・会場限定グッズや周辺の施設や商店、飲食店、また地元の学校や団体等との連動企画を積極的に展開し、一人でも多くの市民や支援者が関わり「石巻にしかない」企画を行い、来訪者の満足度向上と再訪へつなげる。

### 取組強化事項2：新規顧客の掘り起こしに資する事業の展開（課題2関連）

- ・石ノ森萬画館が集客できていなかった層のうち、マンガ・アニメ市場において購買力が高いとされる20～40代女性の誘客を強化するため、俳優・声優・歌手等のファンであることをフックとして来訪を促すべく事業を展開する。

#### 【基本的な方向性】

##### (1) 移動・飲食・見学・学びなど一連の行動を一体的に発信

- ・「JRマンガタンライナーで石巻を訪れ、石ノ森萬画館を見学した後、周辺の飲食店でコラボメニューを食べ、モニュメントを見て回る」など、終日マンガに触れながら観光を楽しむことができることを石巻市や石ノ森萬画館だけでなく、石巻観光協会や地元商店街の事業者とともに、SNSやウェブサイトを通じて発信することで「マンガのまち」のイメージをつくる。
- ・鉄道や飛行機、バスなど広域の交通事業者とともに情報及びイメージ発信を行うことで、県外居住者への効果的な情報発信を進める。
- ・JR東日本東北本部管轄の駅について、サイネージを有する駅では画面を活用して館の情報を配信するように努め、遠方からの誘客を促進する。

##### (2) ソフト事業と連動した館内展示への誘導

- ・イベントを一過性の単発事業として終えるのではなく、館内展示へと誘導し来館者増加に結び付ける。具体的に

は、トークショーのゲストと館内展示の内容を関連させ、サイネージ等で展示の周知を徹底させる、館内展示室とイベント会場を周遊するラリー企画を実施する、展示観覧者のみイベント会場で特定のサービスを楽しむなど、効果的な取り組みを検討し、実施していく。

### 取組強化事項3：現代のニーズに合わせた施設設備や空間の見直し（課題3関連）

- ・無料で入館できる“交流エリア”を拡充し、展示室と相互に来館者を呼び込みあう空間として整備、展開する。
- ・展示室の空調や収蔵環境を整備し、湿湿度管理を厳密に行うことができ、現代のシビアな原画の取り扱いに対応できる空間として整える。

#### 【基本的な方向性】

- (1) 3階交流エリアを利用率の高い空間へと改修
  - ・常設展示や企画展示に合わせたコラボメニューを一連で楽しめるようにすることで、来館者の満足度向上につなげる。また、カフェ自体を目的とした誘客も進め、無料スペースの利用者も展示に誘導できるよう努める。
  - ・上記を達成するため、石ノ森萬画館の3階フロアにあるカフェスペース、ライブラリー、ワークショップスペース、作業スペースを一体利用が可能な空間として再整備し、カフェ空間としての質の向上、ライブラリーとカフェスペースの移動を容易にし、快適に滞在できる空間を整える。
  - ・交流エリアから展示への誘導にあたっては、現在26席しか無いカフェの席数の増加、マンガキャラクターや原画デザインなどをあしらった内装、交流スペース内を区切っている壁面を取り払う、キッチンスペースの拡充によってコラボメニューをはじめとしたメニュー数の増加などを行い、作品に触れる機会を増やすことで実現を図る。
- (2) 展示及び収蔵環境の改善
  - ・石ノ森萬画館では、原画は常設展示室内の原画展示コーナー及び企画展示室で展示されるが、その他のエリア（スタッフの動線含む）と同一の空調管理下にあり、適切な温湿度管理ができていない。厳密に計測・調整できる空調の温湿度管理システムを導入し、繊細で損傷しやすい原画の展示に適した環境を整備する。
- (3) 館内空調の調節機能を向上させ、来館者が快適に利用できる環境を整える。
  - ・館内の温湿度及び換気機能を向上させ、来館者が快適な温度や換気状態で施設を観覧できるようにする。

### 取組強化事項4：周遊型観光の促進（課題4関連）

- ・石ノ森萬画館の来館者及び周辺施設への来訪者の滞在時間を増やすために、訪れたい企画や目的地となる場所を設けること、石巻市内の宿泊へつながるような企画や旅行商品を造成する。

#### 【基本的な方向性】

- (1) 周辺の飲食店や物販店とのコラボレーション
  - ・石ノ森萬画館の企画展示に合わせて、周辺の飲食店でコラボメニューや物販店でコラボグッズを開発して販売することで、石ノ森萬画館来訪者による市内周遊を促す。
  - ・周辺店舗等の協力のもと企画展示をテーマにしたスタンプラリー（紙）を実施することで更なる回遊を促すとともに、観光客と地元事業者とのコミュニケーションのきっかけをつくる。
  - ・また、以下のツアーや宿泊プランの造成などの取り組みによって、マンガを軸とした好影響を継続的に地域にもたらすことができるよう工夫していく。
- (2) 周遊を促すためのツアーの造成
  - ・JRマンガタンライナーやマンガバスを活用し、市街地も周遊するツアーを実施する。
  - ・ツアーに際しては、石巻マンガロード内にあるキャラクターのモニュメントやベンチ等を巡りながら、拠点施設に来館する動線とし、文化資源に触れる機会の多い周遊形態を目指す。
  - ・取組強化事項2に掲載したヒトコマでの交流事業や創作活動事業等のソフト事業とも連動させ、拠点施設一帯の周遊を促す。
- (3) 回遊を促すための情報の発信
  - ・石ノ森萬画館は中心市街地に位置しており、周辺には商店街のほか、北上川の堤防（かわまちオープンパーク）やイベント広場、いしのまき元気いちば（生鮮マーケット・フードコート）といった観光施設や公共施設が集積しているウォーカブルエリアであり、さまざまな団体や市民によるイベントなどの企画が行われている。
  - ・石ノ森萬画館やいしのまき元気いちばを訪れた方が、中心市街地で行われているイベントや店舗の情報などを知ることができるよう、デジタルサイネージ等を使用して情報発信することで回遊を促す。

(4) 石ノ森萬画館と連動した宿泊プランの造成

- ・市内宿泊施設や石巻圏観光推進機構と連携し、石ノ森萬画館の展示や中心市街地で開催するイベントと連動した宿泊プランを造成し、宿泊者数の増加を図る。
- ・宿泊プランの中では、期間限定でのコンセプトルームの宿泊プランなども検討し、マンガの街としてのイメージづくりも進めていく。

**取組強化事項5：拠点への来訪意欲を刺激する海外への情報発信（課題5関連）**

- ・石ノ森萬画館についての観光情報を外国人観光客が取得しやすい環境を整備し、スムーズに入館でき容易に展示について知識を得ることができるよう表示や設備の整備を強化、「マンガで楽しめるまち・石巻」のイメージをつくる。

**【基本的な方向性】**

(1) 外国語の展示解説、音声ガイドの充実

- ・現在設置している音声ガイドの利用について周知する表示を充実させ、利用を促進する。
- ・展示解説を英語以外の言語でも対応可能なものとし、多くの外国人観光客がマンガ文化について理解を深めることができるようにする。英語以外に、中国語（繁体字・簡体字）・韓国語・フランス語対応を想定している。
- ・館内の展示解説や市内主要観光施設（特に石ノ森萬画館の周辺施設）の紹介について、多言語の案内サインやウェブサイトの記載情報を充実させる。

(2) 海外の日本博等において「マンガのまち・石巻」を発信

- ・フランスや台湾で行われる日本のマンガ・アニメコンテンツ展示会に出展し、石ノ森萬画館および「マンガのまち・石巻」について現地メディアを通じて紹介したり、旅行商品の造成へとつなげたりすることで、外国人観光客の誘客を図る。
- ・フランスでは日本のマンガや文化、食べ物を紹介する雑誌がよく読まれている。石ノ森萬画館は震災をきっかけに日本文化を紹介する情報誌「ZOOM JAPON」を発行しているイリフネ社と懇意にしており、同誌を活用して石ノ森萬画館や石ノ森作品について発信していく。
- ・石ノ森萬画館では、フランス・アングレーム市にあるヒューマンアカデミーフランス校より、マンガ文化を学びたいという学生をインターン生として受け入れているが、同校との関係性を活かし、インターン生を通じたSNS発信や口コミ等でフランス向けの認知度向上を図っていく。

(3) 外国人観光客向けの情報収集環境の整備

- ・一般財団法人モバイルスマート財団が運営する「Guidoor D-arcade」のような、多言語で閲覧可能なウェブサイトを活用し、外国人向けに石巻の情報が閲覧できる環境を整備する。
- ・石巻市の外国語版観光ガイドブックはPDF形式で市ホームページに掲載されており、拠点施設の情報も英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語で網羅されているが、そもそも外国人観光客がガイドブック掲載ページを探しにくい状況となっている。これらの情報にアクセスしやすくなるよう、多言語版のWEBページを立ち上げる。
- ・館内サインについて、トイレや各部屋への案内など多言語化されていないため、外国人観光客が館内をスムーズに移動できるよう多言語表示を整備していく。

**3-4. 地域における文化観光の推進への貢献**

**■ 石巻における文化観光**

- ・石巻は江戸時代より湊町として発展してきた街であるが、昭和後期頃からの様々な社会情勢の変化によって1970年代をピークに基幹産業が衰退の一途を辿り、人口減少にも歯止めがかからない状況が続いていた。
- ・石ノ森章太郎氏が平成7年に石巻へ来訪し市長と懇談したことをきっかけに、市では中心市街地活性化の一方策として「石巻マンガランド基本構想」の作成に着手したと同時に、有志の市民らによって地元民話を漫画本にしてマンガ文化に触れる機会が作られたり、商店街にマンガ関連のグッズショップが開店したりするなど様々な活動が展開された。
- ・これらの活動の積み重ねの結果、平成13年に石ノ森萬画館が完成し今日まで続く文化観光の基礎ができあがった。
- ・かつて縁もゆかりもなかった石巻に突如として始まった「マンガを活かしたまちづくり」が、地域を愛する行政職員や市民とそれを応援する漫画家らによって進められ石ノ森萬画館という拠点が生まれ、20年経った現在「マンガのまち・石巻」として認識されるに至ったプロセスや市民の姿勢も、石巻におけるマンガ文化（共通の価値観や行動様式）の一つといえる。
- ・石巻における文化観光とは、石巻にあるさまざまな文化資源（原画、モニュメント、マンガ列車など）を通して、創作の技術を学ぶことや興味を深めることにとどまらず、多様な作品を鑑賞することによって多角的に表現や工夫の方

法を知り、自身の世界観を広げることである。

- ・さらに、マンガを活かしたまちづくりの経緯を鑑みた時、マンガに係る一つ一つの文化資源が市民や応援する方々の地域への深い愛情によって創られたものであることを、作品の観覧や地域の人々との交流を通して知ることも、石巻における文化観光の一つと言える。

#### ■ 本計画による文化観光推進への貢献

- ・本計画では、①来館者のニーズに合った展示内容のブラッシュアップ、②新規顧客の掘り起こしに資する事業の展開、③現代のニーズに合わせた施設設備や空間の見直し、④周遊型観光の促進、⑤拠点への来訪意欲を刺激する海外への情報発信の5つの取組強化事項にもとづき事業を進める。
- ・①においては、既来館者層に対し、拠点施設の展示内容を現代のニーズ・トレンドに沿ったものとする、また、原画などの文化資源をより身近に感じられるよう整備にすることで、多様なマンガ作品を多角的に鑑賞・体験できるようにする。
- ・②においては、県外からの観光客の中でも20~40代の女性を対象に、飲食・見学・学び・移動など一連の観光行動を一体的に発信し、交流拠点で実施されるイベント等を通じて、館内展示へ誘導するよう注力する。
- ・③においては、無料で入館できるエリアを改修し、カフェを中核とした切り口で集客できるよう整備をすすめるとともに、展示原画を厳密な湿度管理下におくことができるよう空調設備を機能向上させていく。
- ・④においては、マンガをテーマとした地域周遊によって拠点施設である石ノ森萬画館のみでなく、拠点施設を含む中心市街地全体の魅力を発信することによってマンガ文化について理解を深める機会を提供する。
- ・⑤については、台湾やフランスの観光客を念頭に、拠点施設の外国人観光客対応のインフラを整備するほか、より石巻及びマンガへの興味関心を喚起できるよう外国語での情報発信や情報収集しやすい環境の整備に注力する。
- ・以上のように、マンガ文化について理解を深める観光を実践することによって、石巻の観光客並びに交流人口を拡大し、地域の活性化に寄与することを目指す。

### 3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

#### ■ マンガ文化の振興を起点とした観光の振興

- ・石巻市の人口は昭和60年の187,578人をピークに減少し、今後も人口減少が進むことが予想されることから、観光客誘致をはじめとする交流人口及び関係人口の創出により、地域の活性化が必要とされている。
- ・前述のとおり、石巻市では平成初期から続けられてきた「マンガを活かしたまちづくり」によって、全国の漫画家や支援者とのネットワークが形成されており、そのつながりを活かして石ノ森萬画館を中心にマンガの魅力を発信してきた。
- ・また、マンガを活かしたまちづくりでは、行政のみでなくまちづくり会社、商店街、事業者などの市民が中心となって、マンガを通じた石巻の魅力の磨き上げや発信を行ってきた。
- ・石巻におけるマンガ文化の振興とは、あらゆるジャンルやストーリーを表現した石ノ森作品に象徴されるようなマンガの持つ魅力を国内外へ広く発信し、石巻を訪れてもらい直にマンガの世界に触れてもらうことである。加えて、およそ30年にわたり続けられてきたマンガを活かしたまちづくりを、今後も世代を越えて続けていくことでもある。
- ・マンガ文化の振興を進めることによって、マンガの魅力に惹かれて石巻を訪れる観光客が増え、消費活動を伴うことで地域観光の振興へと繋げる。観光客はまた、マンガを通じて発信される石巻の魅力を知ったり、マンガを介して地域の人々との交流を重ねたりすることで、地域への理解を深めることができる。

#### ■ 地域にもたらす好循環

- ・上記のように、石巻にはマンガ・アニメファンやクリエイターが集い、マンガ文化に対する理解を深めたり、地域との交流を重ねたりすることにより、石ノ森作品の新たな魅力の発掘や発信が行われる。
- ・また、マンガを活かしたまちづくりの担い手であるまちづくり会社は、観光客の増加によって上げた収益を、文化資源のさらなる磨き上げや発信策へと再投資する。
- ・このように、マンガ文化の振興を起点として生まれた石巻の観光、地域経済の活性化は、観光客や地元の市民らによってさらに磨き上げられるという循環へとつながっていく。

4. 目標

目標①：石ノ森萬画館入館者数【有料入館者数】（課題1・2・5関連、取組強化事項1・2・5関連）

石ノ森萬画館への入館者のうち、有料入館者及び減免入館者（障害手帳等保持者、旅行事業関係者、視察者等）の合計人数を測定し、展示がどの程度来館者に訴求できているか判断する。【参考】H29年度：83,790人、H30年度：91,178人、R1年度：102,314人

年度	実績		目標				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値	44,744人	73,366人	80,000人	85,000人	90,000人	100,000人	110,000人
事業1-①： 常設展示改修事業				設計・改修	改修		
事業1-②： 原画デジタルベース化事業				企画・調整・原画スキャン	原画スキャン	原画スキャン、アーカイブ資料の利活用検討	原画スキャン、アーカイブ資料の利活用検討
事業1-③： 原画展示コーナー改修検討事業				企画・改修内容策定		企画・整備内容の磨き上げ	企画・整備内容の磨き上げ
事業1-④： 企画展開催事業			企画展開催(年4回) 連動企画実施	企画展開催(年4回) 連動企画実施	企画展開催(年4回) 連動企画実施	企画展開催(年4回) 連動企画実施	企画展開催(年4回) 連動企画実施
事業6-①： 空調機能改修事業			改修				
事業6-②： 原画展示コーナー整備事業							整備

目標②：石ノ森萬画館来館者の満足度（課題1・2・3関連、取組強化事項1・2・3関連）							
石ノ森萬画館来館者に対しアンケート調査を実施し、満足度合いが最高点であった者のみを集計する。【参考】R1年度：44.5%							
年度	実績		目標				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値	65.2%	55.9%	60%	65%	70%	75%	80%
事業4-①： コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業			企画・実施	企画・実施	企画・実施	企画・実施	企画・実施
事業6-③： カフェスペース改修事業				設計		改修	

目標③：石ノ森萬画館入館者数のうち、中心市街地を周遊した者の人数（課題4関連、取組強化事項4関連）							
石ノ森萬画館の総入館者のうち、中心市街地の店舗のいずれかを利用する予定もしくは利用した履歴のある者の人数をアンケートで測定し、割合から周遊促進できているか判断する。【参考】R1年度回遊率：16.2%（来館者アンケートより）							
年度	実績		目標				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値	9.8%	20.3%	21.0%	22.0%	23.0%	24.0%	25.0%
事業1-⑤： マンガ列車を活用した体験ツアー 催行事業			催行（年1回）	催行（年1回）	催行（年1回）	催行（年1回）	催行（年1回）
事業3-①： デジタルサイネージ配信事業				企画	配信内容更新	配信内容更新	配信内容更新

目標④：石ノ森萬画館総入館者数のうち、石巻市内に宿泊した観光客の割合（課題４・５関連、取組強化事項４・５関連）							
石ノ森萬画館の総入館者のうち、石巻市に宿泊した割合をアンケートで計測する。【参考】R1年度：17.2%（いしのみき元気いちば付近で実施したアンケート結果より推計）							
年度	実績（推計）		目標				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値	7.8%	14.1%	20.0%	22.0%	24.0%	26.0%	28.0%
事業４－②： ナイトイベントを活用した 宿泊プラン造成事業			造成・販売	造成・販売	造成・販売	造成・販売	造成・販売

目標⑤：石ノ森萬画館来館者のうちの外国人の人数（課題５関連、取組強化事項５関連）							
石ノ森萬画館有料入館者のうちの外国人の人数。券売機で入場券を購入する際の多言語表示選択人数で計測。なお、コロナ禍前のR1年度の推計値を758人とし、基準となる人数が少ないことから計画開始から5年目のR9年度に2.6倍超の2,000人を目指し、10年目のR14年度には5.2倍超の4,000人を目指す。							
【参考】R1推計：758人 ※令和元年度宮城県観光パラメータ調査で実施したアンケートから、石ノ森萬画館の有料入館者数の0.7%が外国人観光客と推測されるため。							
年度	実績（推計）		目標				
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値	171人	189人	800人	1,000人	1,200人	1,600人	2,000人
事業２－①： 多言語版ウェブサイト制作 発信事業			企画	英語版作成	中国語（繁・簡）を 追加	仏語を追加	韓国語を追加
事業３－②： 館内サイン多言語化事業				制作・設置			
事業５－①： 海外の日本博等における 「マンガのまち・石巻」の 発信事業			出展	出展	出展	出展	出展

## 5. 目標の達成状況の評価

本事業で目標と定めた指標の数値を随時計測し、石巻市、石ノ森萬画館指定管理者（街づくりまんぼう）、石巻観光協会、石巻圏観光推進機構（DMO）で情報を共有し、達成率を勘案しながら年1回進捗を評価する。達成率が良好であるものはそのまま事業継続とし、達成率が悪いものについてはマーケティング調査等を実施して問題点を洗い出し、実施方法の変更などを検討しながら改善に努める。

## 6. 文化資源保存活用施設

### 6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

#### 6-1-1. 現状の取組

##### ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

- ◎石ノ森萬画館やマンガモニュメントなどについて紹介する日本語版の街歩きマップを発行している。
- ◎石ノ森萬画館においては、石ノ森章太郎氏の生い立ちや作品の歩みを年表形式で紹介している。
- ◎常設展示では石ノ森作品世界を直感的に感じてもらうことをコンセプトとしているため、解説や紹介はほとんど設置していないが、設置しているサインや解説であっても日本語表記のみとなっている。
- ◎石ノ森氏の作品はマンガだけではなくアニメや特撮になっている作品も多いため、作品の一部を上映する形で紹介している。

##### ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

- ◎中心市街地商店街(石巻マンガロード)のモニュメント等を紹介する日本語版ウェブサイトがある。
- ◎石ノ森萬画館においては、来館者が館内の情報や作品の解説を自分のスマホで聞くことができる音声ガイドアプリを導入しており、日本語版と英語版を用意している。

##### ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

- ◎石ノ森萬画館を紹介するパンフレットについて、英語版、中国語（繁・簡）版を発行している。
- ◎石ノ森萬画館の展示物について、音声ガイド及びテキストを用いた解説を行っている。館内で公開している専用のQRコードを自分のスマートフォンで読み込むだけでアクセスでき、日本語版と英語版が選択可能。
- ◎石ノ森萬画館においては、映像ホールで上映している4作品のうち3作品は英語の字幕を用いているが、残りの1作品はもともと台詞がなく音楽と効果音のみで表現するアートアニメーションとなっている。
- ◎石巻駅から拠点施設への案内状況については、市役所に配置されている英語通訳（ネイティブスピーカー）の監修のもと英語表記を案内看板に付している。また、石巻市が観光協会に対して負担金を支出し制作している観光ガイドブックも外部機関の翻訳のもと英語版・中国語（繁・簡）版・韓国語版が発行されており、石ノ森萬画館の概要的な営業情報についても多言語で記されている。

#### 6-1-2. 本計画における取組

##### ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

- ◎石ノ森作品のマンガ原画をデジタルベース化し、設置されたタッチパネル機器によって来館者が自由にマンガ原画を閲覧できるようにする。
- ◎常設展示室のうち「仮面ライダーの世界」をリニューアルすることで石ノ森氏の作品をより臨場感を持って伝えるとともに、人気作品の「ゴレンジャーの世界」を新設することで石ノ森作品の魅力伝え、集客を図る。
- ◎石ノ森作品や石ノ森萬画館で開催する企画展示と連動した飲食メニューを開発して来館者に提供することで、「見る」以外の方法で作品に対する理解や愛着を深めてもらう。
- ◎石ノ森萬画館3階のフリースペースは、それぞれ独立した空間ではなく一体利用が可能なフロアとして再整備し、常設展示や企画展示に合わせたコラボメニューとあわせ、読書や簡易的なワークショップも一連で楽しめ、複合的にマンガ文化を紹介・体感できる場とする。
- ◎フランス・アングレーム国際漫画祭等の海外で行われる日本のマンガ・アニメコンテンツ展示会に出展しPRを行う。また、フランスで親交の深い機関を通じて継続的に日本のマンガ文化や石ノ森萬画館の情報を発信する。
- ◎石巻駅前、いしのまき元気いちば前に設置されるデジタルサイネージにおいて、石ノ森萬画館、石巻マンガロード

のモニュメント、石ノ森萬画館周辺の施設・イベント情報を動画やスライドによって紹介する。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

- ◎常設展示においては、直感的に作品世界を感じてもらうという開館時のコンセプトを踏襲し、現行の音声ガイドの周知をさらに高めることにより利用率の向上、作品の解説・紹介の充実化を図る。
- ◎次項に記載のとおり、拠点施設や展示内容について、多言語の開設をウェブサイト上に掲載し、文化資源に対してより理解が深まるように努める。なお、解説の多言語化にあたっては、観光庁「How to 多言語解説整備」に沿って行う。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

- ◎外国人観光客向けに、石巻の魅力を紹介する多言語版のウェブサイトを作成し発信する。日本語の他に英語、中国語（繁・簡）、韓国語版のPC並びにスマートフォン用のサイトを作成・公開し、石巻へ訪問しようとしている外国人観光客に石巻の情報を届けるようにする。
- ◎上述の解説の多言語化にあたっては、観光庁「How to 多言語解説整備」に沿って行うものとし、石巻市に配置されているネイティブスピーカー職員（国際交流員）、石ノ森萬画館と親交が深いフランスの出版社（ZOOM JAPON）等に相談・依頼し、解説文の制作・翻訳に取り組むこととする。また、現状整備済みの解説については、先述の国際交流員等のほか、市役所内の各国への留学経験者などの協力も得て、外国人観光客に対して説明が不足している事項や分かりにくい解説となっている箇所を洗い出し、進めていく。

6-2 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

- ◎「食彩・感動・いしのまき」観光推進協議会、みやぎ観光振興会議石巻圏域会議、宮城県ローカル線活性化検討会議などを組織し、石巻圏観光推進機構（DMO）も参加しており連携体制を構築している。
- ◎石巻観光協会や街づくりまんぼうが中心となり、DMO とともに「街なかインバウンド推進ネットワーク」を組織し、大型客船寄港時のおもてなし対応や、文化資源の発信に向けた取り組みを行っている。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

- ◎DMO が石巻圏域（石巻市、東松島市、女川町）の来訪者を対象とした観光動態調査及び分析を毎年行い、観光関係事業者とデータを共有している。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPI の設定・PDCA サイクルの確立

- ◎DMO の他にも、観光関係事業者がデータ調査や独自に分析を行っているものの、それらを共有してフィードバックし戦略立てする場は設けられていない。

6-2-2 本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

- ◎「食彩・感動・いしのまき」観光推進協議会など市内の観光関係事業者が集まる場を活用して、本計画の内容と事業の進捗状況について共有し、必要に応じて事業者の協力を得ながら進めていく。
- ◎仙台～石巻間を運行しているラッピング列車「マンガタンライナー」やラッピングバスを活用した旅行ツアーを企画販売し、遠方からの誘客を図る。
- ◎市内宿泊施設等とも連携した観光客宿泊者数増加の取り組みを実施。「野外上映会」「飲食ラリー」等の夜間に行う催事や飲食店での食事つき宿泊パックを企画し販売する。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

- ◎石巻圏観光推進機構（DMO）で実施している観光動態調査の他、石ノ森萬画館において必要となるデータをアンケート調査等によって収集し分析していく。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPI の設定・PDCA サイクルの確立

- ◎石巻市、街づくりまんぼう、DMO が中心となって文化観光の推進に関する事業方針を策定し、KPI を設定する。
- ◎年に1回、事業の進捗状況について事業実施主体が共有する場を設け、課題点の抽出・整理、事業の見直し等を行う。

6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

- ◎街づくりまんぼう、元気いしのまき、石巻観光協会は、大型客船来港時のおもてなし企画や大型連休時の観光インフォメーションブースの共同運営など連携事業を行っている。(なお、第1号事業者のDMOも参画している)
- ◎上記3者は中心市街地への来訪者の交通アクセス改善に向けた検討や中心市街地商店街の賑わい創出に向けた情報共有の場(かわまち定例会)を定期的に設けている。

6-3-2. 本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

- ◎話題性、集客性のある企画展示及び連動企画を実施し、版元からの許諾を前提としてコラボメニューなど市内の飲食店とも連携した展開を行う。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号1-①)

事業名	常設展示改修事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森萬画館は平成13年に開館し、22年が経過した今でも当時から更新されていない展示が多々あり、展示の陳腐化が進んでいる。そこで、既来館層の満足度を上げ、集客や消費をより向上させる施策として、石ノ森氏の代名詞とも言われている「特撮作品」の展示の充実を行う。</li> </ul> <p>【「仮面ライダーの世界」の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮面ライダーは、1971年に仮面ライダー1号が誕生して以来50年以上続く長寿作品で、これまでに発表された作品タイトルだけでも39作品に及び親子三代に渡り親しまれている作品である。</li> <li>・平成に入ってから人気俳優を主演に抜擢して、女性などもターゲットに取り込み「平成ライダー」という一大ジャンルを築いたコンテンツである。</li> <li>・本事業では、従来の仮面ライダーの展示ゾーンのスペースを拡充し、展示の充実を図るもので具体的には以下の改修計画を検討している。             <ul style="list-style-type: none"> <li>○仮面ライダーの誕生に関するグラフィック(誕生秘話、デザイン画、設定画等)</li> <li>○仮面ライダーの作品系譜グラフィック</li> <li>○歴代の全ての仮面ライダー(主役のライダー)のマスクと変身ベルトの展示</li> <li>○歴代仮面ライダーのフィギュアの展示</li> <li>○仮面ライダーと写真が撮れるフォトスポット</li> <li>○歴代の仮面ライダーの主演を務めた俳優からのコメント</li> <li>○歴代仮面ライダーのオープニング映像を上映</li> <li>○サイクロン号に乗って疾走する体験アトラクション「サイクロン号に乗る！」リニューアル(サイクロン号を模したバイク型ジオラマに跨り、ハンドルを操作することで画面上の仮面ライダーが走行するもの。街なかを走行し、走行タイム等を競う内容とする。)</li> <li>※歴代仮面ライダーのマスクとベルトを常設展示するのは石ノ森萬画館以外に世界的に例がなく、今後登場する仮面ライダーについても随時追加展示をしていく。</li> </ul> </li> </ul> <p>【「秘密戦隊ゴレンジャーの世界」を新設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮面ライダーと同様に「特撮」ジャンルの中で人気を博している「秘密戦隊ゴレンジャー」の展示コーナーを新設する。秘密戦隊ゴレンジャーは1975年に発表され、「スーパー戦隊シリーズ」として現在も続く人気作品シリーズの第一作目として、今なお高い人気を誇っている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業では、秘密戦隊ゴレンジャーの展示ゾーンを新設するもので、具体的には以下の展示計画を検討している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○秘密戦隊ゴレンジャーの誕生に関するグラフィック（誕生秘話、デザイン画、設定画等）</li> <li>○作品コンセプトに関するグラフィック</li> <li>○各キャラクターのマスク展示</li> <li>○撮影時のエピソード、場面写真等の展示　ほか</li> </ul> </li> </ul>
実施主体	石巻市、街づくりまんぼう
実施時期	2024（令和6）～2025（令和7）年度
継続見込	改修後は、指定管理事業として街づくりまんぼうの維持管理のもと継続して展示
アウトプット 目標	展示改修
必要資金 調達方法	102百万円（内訳：【石巻市】34百万円、【文化観光推進事業補助金】68百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号1-②）

事業名	原画デジタルベース化事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森氏は「一人の著者が描いたコミックの出版作品数が世界で最も多い」としてギネス世界記録に認定されるほどたくさんの作品を生み出し、その原画の数は膨大な量に及ぶ。</li> <li>・石ノ森萬画館の主たる文化資源は石ノ森氏が遺した原画であり、これらの貴重な原画を最大限に活用するために原画を1点ごとスキャンし、デジタルベース化するものである。</li> <li>・デジタルベース化した原画は常設展示室内の原画展示コーナーを始めとした館内にて、来館者が閲覧できるようにする。</li> <li>・展示設備の整備については事業番号6-②に記載。</li> </ul>
実施主体	石巻市、街づくりまんぼう
実施時期	2024（令和6）年度から2027（令和9）まで毎年実施
継続見込	改修後は、指定管理事業として街づくりまんぼうの維持管理のもと継続して展示
アウトプット 目標	原画スキャン1,500点/年
必要資金 調達方法	0.9百万円（内訳：【石巻市】0.3百万円、【文化観光推進事業補助金】0.6百万円） 19.8百万円（内訳：【街づくりまんぼう】11百万円、【文化観光推進事業補助金】8.8百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号1-③）

事業名	原画展示コーナー改修検討事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森萬画館の主たる文化資源のメインは石ノ森氏が遺した膨大な原画であり、日本漫画の黎明期の資料であることから、これらの貴重な原画を最大限に活用し、従来の石ノ森ファンやマンガファン、さらにアートに敏感な学生やクリエイター等へ訴求し、集客へと結びつける。</li> <li>・石ノ森氏は「一人の著者が描いたコミックの出版作品数が世界で最も多い」として「ギネス世界記録」に認定されるほど多くの作品を手掛け、さらに作品のジャンルの広さから「マンガの王様」と称された。また、美しい線と繊細なタッチで描かれる石ノ森氏の原画は非常に魅力的として定評があり、本事業では、それらの貴重な原画をできる限り良い鑑賞環境で観られるように原画展示コーナーの改修を行うものである。</li> <li>・現在の原画展示コーナーは観覧者と原画との距離があり、間近で見ることができないようになっている。また、ガラスに照明が反射して観にくい状態になっており、より原画を観やすくするために観覧者と原画との距離を縮め、グレアの少ないガラスにするように改修し、石ノ森氏が描く原画の筆致や描写表現を体感できるような改修内容とするよう企画する。</li> <li>・石ノ森萬画館では、原画を展示室内に設置するほか、展示していない原画は収蔵庫にて保管をしている。しかしながら、原画の展示収蔵スペースに係る空調機器及び管理システムは、22年前の開館時に導入したもので、館内を一括で管理しそれぞれの室ごとの細かい調整ができないものとなっている。昨今は原画の借用にあたりシビアな管理環境を求められ、現状の空調では温湿度の変化に敏感あるいは弱い素材の資料が借用できず、来館者ニーズに合わせた展示の実施に支障が発生していることから、来館者の展示室利用の利便性向上も考え、厳密な温湿度管理ができる機</li> </ul>

	器及びシステムへの機能向上も図り、空調の整備状況も踏まえて原画展示コーナーの改修企画を練る。 ・展示設備の整備については事業番号6-②に記載。
実施主体	石巻市、街づくりまんぼう
実施時期	2024（令和6）年度～2027（令和9）年度
継続見込	改修後は、指定管理事業として街づくりまんぼうの維持管理のもと継続して展示
アウトプット 目標	展示改修企画内容の策定
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：【石巻市】2百万円、【文化観光推進事業補助金】4百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号1-④）

事業名	企画展開催事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森ファンだけではなく新規顧客も誘客するため、年間を通して様々な企画展を開催する。平成13年の開館以来、申請時点（令和5年6月）で開催している企画展で89回を数える。</li> <li>・1回あたり2～3か月程度の企画展を年4回開催。会期とテーマは概ね次の通り。 ※流行や版元の事情等によりテーマを変更する場合もある。 春季（4～6月）：石ノ森ファンまたは20～40代の女性をターゲットとして展示 夏季（7～9月）：夏休みの繁忙期を意識しファミリー層をターゲットとした展示 秋季（10～12月）：石ノ森ファンまたは20～40代の女性をターゲットとして展示 冬季（1～3月）：観光客の動きが鈍い時期のためコアなファン層をターゲットとした展示</li> <li>・企画展の開催だけでなく、展覧会以外の複数の動機づけにより集客を目指すため、企画展の開催に合わせて、来場者プレゼント、会場限定のオリジナルグッズ販売を実施する。</li> <li>・上記に加えて、他事業に掲載している会場限定のコラボメニューの提供等を行い、複合的に事業を展開することによって相乗的に集客効果の発揮を目指す。</li> </ul>
実施主体	石巻市、街づくりまんぼう
実施時期	2023（令和5）～2027（令和9）年度
継続見込	指定管理事業として街づくりまんぼうの企画・設営・管理のもと継続して展示
アウトプット 目標	企画展開催（年4回） 1回あたりの会期は2～3か月程度
必要資金 調達方法	75百万円（内訳：【街づくりまんぼう】75百万円）

（事業番号1-⑤）

事業名	マンガ列車を活用した体験ツアー催行事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在運行しているJR仙石線マンガタンライナー及びJR仙石東北ラインマンガタンライナーを活用し、石ノ森萬画館へ向かうツアー商品を造成する。</li> <li>・使用車両数については、仙石線マンガタンライナーは1編成4両、仙石東北ラインマンガタンライナーは1編成2両を想定している。</li> <li>・ツアーホストとして声優、漫画家、歌手、俳優等を招聘し、参加者と一緒にツアーに参加する。</li> <li>・参加費は1万円～1万5千円/人を想定。</li> </ul> <p>【行程例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台駅集合～マンガタンライナーに乗って石巻へ</li> <li>・車内ではツアーホストによるトーク、歌唱、ゲーム等の楽しいアトラクションを実施</li> <li>・途中の駅からスペシャルゲスト（ローカルヒーロー、ご当地キャラ等）が乗車</li> <li>・途中の駅では全員下車をして、参加型ゲームや買い物、記念撮影など</li> <li>・石巻駅到着時にツアーホストから参加記念品プレゼントを配る 記念品の中には、石ノ森萬画館観覧券、市街地で使える買い物券を同封</li> <li>・石ノ森萬画館へマンガモニュメントを巡りつつ誘導するようにし、道中で飲食や買い物も楽しんでいただく。</li> </ul>
実施主体	街づくりまんぼう、石巻圏観光推進機構
実施時期	2023（令和5）～2027（令和9）年度

継続見込	街づくりまんぼう、石巻圏観光推進機構の主催事業として継続して開催する。
アウトプット 目標	・イベントを開催（年1回） ・参加者100名/回
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：【街づくりまんぼう】2百万円、【文化観光推進事業補助金】4百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号2-①)

事業名	多言語版ウェブサイト制作発信事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客に向けて、石巻の魅力を紹介する多言語版のウェブサイトを作成し発信する。</li> <li>・現在、石巻市の観光ガイドブックは、日本語の他に英語、中国語（繁・簡）、韓国語版があるものの紙媒体で発行しているのみで電子媒体がない状況である。これらの多言語化されたパンフレットの内容を転載したPC用サイトとスマートフォン用サイトを作成し、石巻へ訪問しようとしている外国人に対し、石巻の情報を届ける環境を作る。</li> <li>・これらの情報を掲載したサイトを諸関係機関のサイトにリンクを貼るなどして、外国人観光客が情報にアクセスしやすい環境を整えるようにする。</li> <li>・英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語、フランス語対応を想定。</li> <li>・ウェブサイトの多言語化にあたっては、観光庁「How to 多言語解説整備」に沿って行うものとし、石巻市に配置されているネイティブスピーカー職員（国際交流員）、石ノ森萬画館と親交が深いフランスの出版社（ZOOM JAPON）等に相談・依頼し、解説文の制作・翻訳に取り組む。</li> </ul>
実施主体	石巻市、石巻観光協会、石巻圏観光推進機構、街なかインバウンド推進ネットワーク
実施時期	2024（令和6）～2027（令和9）年度
継続見込	石巻観光協会が主体となり関係機関と共同で継続的に運用していく。
アウトプット 目標	ウェブページ公開
必要資金 調達方法	7.2百万円（内訳：【石巻観光協会】2.4百万円、【文化観光推進事業補助金】4.8百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	デジタルサイネージ配信事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森萬画館に訪れる人は「いしのまき元気いちば」や「石巻駅」から来館する人が多いという統計が出ているものの、いしのまき元気いちばには年間100万人以上が来場し、石巻駅は年間230万人の利用者があるのに対し、石ノ森萬画館にはその一部の人数しか来場していない。</li> <li>・いしのまき元気いちば付近と石巻駅付近の2カ所にデジタルサイネージを1基ずつ設置し、歩行者に対して石ノ森萬画館の展示やイベント、グッズ、コラボメニュー等の情報を露出し来館を促す。</li> <li>・デジタルサイネージ本体は拠点計画とは別事業として令和6年度に設置見込み。令和6年度は石ノ森萬画館スタッフを中心に配信内容を企画し、令和7年度以降に本事業としてソフトの更新を行っていく。</li> </ul>
実施主体	石巻市、街づくりまんぼう
実施時期	2025（令和7）年度～2027（令和9）年度
継続見込	指定管理事業として内容データを作成・更新して継続配信する。
アウトプット 目標	配信データの作成、配信、更新
必要資金	4.5百万円（内訳：【石巻市】1.5百万円、【文化観光推進事業補助金】3百万円）

調達方法	国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
------	--

(事業番号3-②)

事業名	館内サイン多言語化事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森萬画館の館内表示のほとんどが多言語化されていない。海外からの観光客の増加に備えて館内表示の多言語化を進めるもの。言語は、英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語・フランス語とする。</li> <li>・館内のあらゆる案内や説明を多言語化で表示すると文字量が膨大になり、言語数が増えるに従い読みにくい表示となるため、ピクトグラムの活用と併せ、文字量を調整した表示とする。</li> <li>・解説サインの多言語化にあたっては、観光庁「How to 多言語解説整備」に沿って行うものとし、石巻市役所に配置されている英語・中国語通訳（いずれもネイティブスピーカー）、石ノ森萬画館で受け入れているフランス人留学生等の監修のもと進める。</li> </ul>
実施主体	石巻市、街づくりまんぼう、街なかインバウンド推進ネットワーク
実施時期	2024（令和6）年度
継続見込	事業終了後、指定管理事業として街づくりまんぼうが継続的に活用する。
アウトプット目標	サイン設置
必要資金 調達方法	24百万円（内訳：【街づくりまんぼう】0.8百万円、【文化観光推進事業補助金】1.6百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森萬画館の近隣には飲食店も数多くあり、各店舗との差別化を図りながらも館内カフェの売上を確保する方策として、マンガやアニメ作品とのコラボメニューに特化した営業形態にシフトしていく。具体的には、石ノ森作品のキャラクターをモチーフとしたメニューや石ノ森萬画館で開催する企画展示のキャラクターをあしらったメニューやグッズを付したメニューなど連動した内容を想定している。</li> <li>・作品の種類や版元の許諾によって、石ノ森萬画館だけではなく市街地の飲食店も含めたコラボメニューを展開する。</li> <li>・現在のカフェスペースの利用客は、展示室の観覧目的で来たついでに寄っていく方が多いと見受けられるが、コラボメニューの味・見た目の質を上げることによって、展示だけでなく飲食を目的に来る来館者増加を目指す。</li> <li>・なお、現在のカフェスペースは26席しかなく、繁忙時は席数の不足により1日およそ10組が退店してしまうなど機会損失が生じている。</li> <li>・上記の要因の一つは、調理場や洗い場、バックヤードが狭く、調理・作業スペースが十分に取れないことから、来店者の回転や作業効率をあげる工夫が実施しにくく、料理提供の遅滞、来店者の滞留などが発生しているためである。</li> <li>・また、作業効率を重視するためコラボメニューについては飲料メニューが増えており、誘客のためには提供商品の質を上げるとともに食事メニューの増加も欠かせないが、メニュー増加には作業スペースの狭さが支障となる。</li> <li>・上記の理由から、総合的により広いスペースにカフェを拡充する必要があり、事業内容6-③で改修事業を行う。現在のカフェスペース利用者は総入館者の18%（32,400人/年）程度であるが、取りこぼしている来館者数を考慮すると30%程度までの利用率向上が期待できるため、新規に誘客する層も加え、5年間合計で1億円の収入を目指す。</li> </ul>
実施主体	街づくりまんぼう、元気いしのまき
実施時期	2023（令和5）～2027（令和9）年度
継続見込	街づくりまんぼう自主財源で継続して開発する。
アウトプット目標	コラボメニューの開発、提供

必要資金 調達方法	メニュー開発・提供：10百万円（内訳：【街づくりまんぼう】10百万円）
(事業番号4-②)	
事業名	ナイトイベントを活用した宿泊プラン造成事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の宿泊施設と連携し、観光客向けの宿泊プランを造成し販売する。</li> <li>・夜に実施するイベントを企画し、それらのイベントと宿泊等をまとめた特別感のある、あるいはお得感のある宿泊パックを企画する。</li> </ul> <p>(宿泊パック案) 下記のようなプランに石ノ森萬画館の入館券を組み合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「石ノ森萬画館に映し出す野外上映会」＝映画鑑賞特別席＋萬画館観覧＋宿泊 石ノ森萬画館の白い外壁に映写し、川を挟んだ対岸の堤防・いしのまき元気いちばテラスから鑑賞するもの。露店出店のほか元気いちばフードコートと連携し、飲食ブースも出店。</li> <li>・「飲食店周遊スタンプラリー（バーホッピング）」＝ラリーチケット＋宿泊 チケット5枚を1冊とし2,000～3,000円で販売。中心市街地の協力店舗(15店舗前後を想定)を巡り、チケット1枚につき1店舗で1ドリンク1フードのサービスが受けられることを想定。コラボメニュー提携店舗との連携も検討している。</li> <li>・「ナイトミュージアム」パック＝萬画館観覧券＋飲食代＋宿泊 夜間の石ノ森萬画館見学会、閉館後に喫茶ブルーゾーンで行うオフ会を行う。</li> <li>・「コンセプトルーム宿泊」パック＝コンセプトルーム宿泊＋萬画館観覧券＋コラボメニュー 期間限定のコンセプトルームでの宿泊やコラボメニューを通して作品の世界観を楽しむ。</li> </ul>
実施主体	石巻圏観光推進機構、石巻観光協会
実施時期	2023（令和5）年度～2027（令和9）年度
継続見込	石巻圏観光推進機構、石巻観光協会の主催事業として継続的に企画、販売していく。
アウトプット 目標	宿泊プラン造成販売
必要資金 調達方法	<p>6百万円（内訳：【石巻圏観光推進機構】1百万円、【石巻観光協会】1百万円、【文化観光推進事業補助金】4百万円）</p> <p>国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。</p>

#### 7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

(事業番号5-①)	
事業名	海外の日本博等における「マンガのまち・石巻」の発信事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス・アングレーム国際漫画祭をはじめ海外で行われる日本のマンガ・アニメコンテンツ展示会に出展し、石ノ森萬画館および石巻について現地メディアを通じて紹介し、また旅行商品の造成へとつなげることで海外からの観光客の増加を図る。</li> <li>・石ノ森萬画館はフランス・アングレーム市にあるヒューマンアカデミー・ヨーロッパ校との親交が深く、毎年留学生を受け入れている。また、パリを拠点に日本文化を紹介する情報誌を展開している ZOOM JAPON 社、JR 東日本パリ支社等との親交も深く、各社を通じてフランスにおける石巻のマンガ文化の受容可能性やニーズを探り、プロモーション戦略を立て、文化資源をブラッシュアップした上で、石ノ森萬画館の魅力をヨーロッパへ発信する。</li> </ul> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎フランスでのイベント出展（実績：JAPAN EXPO 1 回出展、アングレーム国際漫画祭：2 回出展）</li> <li>・イベント出展を通じて、イベント主催者やスタッフ、出版社、翻訳家、プロモーター等と親交を深めており、フランスでの石ノ森作品の展開やフランスからの誘客等について、石ノ森萬画館側から適宜協力を依頼する。</li> <li>◎ZOOM JAPON <ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOM JAPON 誌面で石ノ森萬画館や石巻について紹介</li> <li>・ZOOM JAPON が出展するイベント等で石ノ森萬画館や石巻について紹介 など</li> </ul> </li> <li>◎JR 東日本パリ支社 <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日旅行者へ石ノ森萬画館や石巻の情報提供</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石巻へのツアーの造成 など</li> <li>◎ヒューマンアカデミー・ヨーロッパ校</li> <li>・留学生からの発信（学校へのレポート、SNS、ロコミ等）</li> <li>・学校が出展するイベントで石ノ森萬画館のことをPR</li> <li>・石ノ森萬画館がフランスで行う事業についてのサポート（告知、学生スタッフの提供等）</li> </ul>
実施主体	街づくりまんぼう
実施時期	2023（令和5）～2027（令和9）年度
継続見込	街づくりまんぼう自主財源での運用及び指定管理事業の広報展開は指定管理料内で対応する。
アウトプット 目標	毎年1月下旬に開催される「アングレーム国際漫画祭」でのPR
必要資金 調達方法	21百万円（内訳：【街づくりまんぼう】21百万円）

7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号6-①）

事業名	空調機能改修事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森萬画館では、原画を常設展示室内の原画展示コーナーと企画展示室の2つのエリアで展示しており、展示していない原画は収蔵庫にて保管をしている。これらを管理している空調機器、管理システムは22年前の開館時に導入したもので、館内を一括で管理しそれぞれのエリアごとの調整ができないものとなっている。</li> <li>・昨今は原画の借用にあたりシビアな管理環境を求められるため、現状の空調では温湿度の変化に敏感あるいは弱い素材の資料が借用できず、来館者ニーズに合わせた展示の実施に支障が発生していることから、展示可能資料の増加や来館者の展示室観覧の快適性向上も考え、厳密な温湿度管理ができる機器及びシステムに改良を図る。</li> <li>・また、常設及び企画展示室以外の館内においても温湿度管理や換気システムは十分に機能しておらず、来館者が快適に拠点施設を利用できる環境が整っていない。</li> <li>・空調機器周りの温湿度を調整する装置及び館内空調をとりまとめて管理している中央装置等を改修することにより、館内一括して温湿度管理をし、換気機能もほぼ機能していなかった状況から、エリアごとに適切な温湿度かつ換気状況で運用できるようにし、来館者の満足度を向上させる。</li> </ul> <p>※事業番号1-③に必要な整備事業</p>
実施主体	石巻市
実施時期	2023（令和5）年度
継続見込	改修後は、指定管理事業として街づくりまんぼうの維持管理・保守のもと継続して使用し、修繕を要する場合は金額に応じて市担当課と指定管理者とで協議し修繕する。
アウトプット 目標	改修工事実施
必要資金 調達方法	69百万円（内訳：【石巻市】23百万円、【文化観光推進事業補助金】46百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号6-②）

事業名	原画展示コーナー整備事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森萬画館の原画展示コーナーは観覧者と原画との距離があり、間近で見ることができないようになっている。また、ガラスに照明が反射して観にくい状態になっており、より原画を観やすくするために観覧者と原画との距離を縮め、グレアの少ないガラスにするように改修し、石ノ森氏が描く原画の筆致や描写表現を体感できるようにする。</li> </ul> <p>※事業番号1-②、1-③に必要な整備事業</p>
実施主体	石巻市、街づくりまんぼう
実施時期	2027（令和9）年度

継続見込	改修後は、指定管理事業として街づくりまんぼうの維持管理のもと継続して使用し、修繕を要する場合は金額に応じて市担当課と指定管理者とで協議し修繕する。
アウトプット 目標	改修工事実施
必要資金 調達方法	30百万円（内訳：【石巻市】10百万円、【文化観光推進事業補助金】20百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号6-③)

事業名	カフェスペース改修事業
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石ノ森萬画館3階のカフェスペース「喫茶ブルーゾーン」では、既存の石ノ森ファンやマンガ・アニメ作品に感度の高い20~40代女性を対象に、石ノ森作品のキャラクターをモチーフとしたメニューや石ノ森萬画館で開催する企画展示のキャラクターをあしらったメニューやグッズを付したメニューなど、展示と連動したメニュー提供に特化する計画である。</li> <li>・しかし、客席が26席と利用者が気軽に飲食できるスペースとしては狭く、繁忙時は席数の不足により1日10組前後退店しており、展示室から誘導した来館者を年間でおよそ3,000組取りこぼしている。これは、調理場や洗い場、バックヤードも狭く、調理・作業スペースが十分に取れず来店者の回転や作業効率をあげる工夫が実施しにくいことが原因の一つである。</li> <li>・また、作業効率を考えコラボメニューに飲料メニューが増えており、誘客のためには提供商品の質を上げるとともに食事メニューの増加もかせないが、メニュー増加には作業スペースの狭さが支障となる。</li> <li>・3階にはカフェスペースの他にマンガ図書室、ワークショップを実施するマンガ工房があり、それぞれ独立したスペースであるため、席数を増やすためには3階フロア全体の改修を要する。</li> <li>・上記の理由から、総合的により広いスペースにカフェを拡充する必要があり、改修事業を行う。現在のカフェスペース利用者は有料入館者の20%（16,000人）程度であるが、取りこぼしている来館者数を考慮すると30%程度までの利用率向上が期待できるため、新規に誘客する層も加え、5年間合計で1億円の収入を目指す。</li> <li>・本事業では、各エリアを区切っている内壁の改修、席数の増、キッチン内調理スペースの拡充などを行うとともに、現在コンクリートとなっている壁面に石ノ森キャラクターをあしらい、カフェ全体で「マンガミュージアムらしさ」をより演出する設えとする。</li> </ul> <p>※事業番号4-①に必要な整備事業</p>
実施主体	石巻市、街づくりまんぼう
実施時期	2024（令和6）、2026（令和8）年度
継続見込	改修後は、場所の維持管理は指定管理事業として街づくりまんぼうが行い、修繕を要する場合は金額に応じて市担当課と指定管理者とで協議し修繕する。ソフト事業の展開は、街づくりまんぼう独自事業及び展示と連動するものについては指定管理事業として別途実施する。
アウトプット 目標	フロア改修
必要資金 調達方法	102百万円（内訳：【石巻市】34百万円、【文化観光推進事業補助金】68百万円） 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-2 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	

特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

(留意事項)

- ・「事業番号・事業名」には、7-1の事業番号及び事業名を記載してください。
- ・「必要とする特例根拠」には、特例を受けようとする文化観光推進法の条文を抜粋し、「〇〇〇法の特例」と（ ）内に記入してください。
- ・「特例措置を受けようとする事業内容」には、以下のいずれかの事業の概要を記入するとともに、当該事業の内容を特例措置との関係が分かるよう簡潔に記入してください。
  - ・文化資源保存活用施設に来訪する国内外からの観光旅客を対象とする共通乗車船券に係る運賃又は料金の割引を行う事業
  - ・国土交通省関係文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律施行規則（令和2年国土交通省令第47号。以下「国交省令」という。）第2条に規定する事業
  - ・国交省令第3条に規定する事業
  - ・国交省令第4条に規定する事業

## 7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和5年度	92.6百万円	事業番号1-④	15.0百万円	15.0百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号1-⑤	1.2百万円	0.4百万円(街づくりまんぼう・石巻圏観光推進機構) 0.8百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号4-①	2.0百万円	2.0百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号4-②	1.2百万円	0.4百万円(石巻圏観光推進機構・石巻観光協会) 0.8百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号5-①	4.2百万円	4.2百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号6-①	69.0百万円	23.0百万円(石巻市) 46.0百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
令和6年度	79.8百万円	事業番号1-①	20.0百万円	6.7百万円(石巻市) 13.3百万円(文化観光推進事業補助(文化庁))
		事業番号1-②	6.0百万円	2.0百万円(街づくりまんぼう) 4.0百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号1-③	6.0百万円	2.0百万円(石巻市) 4.0百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号1-④	15.0百万円	15.0百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号1-⑤	1.2百万円	0.4百万円(街づくりまんぼう・石巻圏観光推進機構) 0.8百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号2-①	1.8百万円	0.6百万円(石巻観光協会) 1.2百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号3-②	2.4百万円	0.8百万円(街づくりまんぼう) 1.6百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号4-①	2.0百万円	2.0百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号4-②	1.2百万円	0.4百万円(石巻圏観光推進機構・石巻観光協会) 0.8百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号5-①	4.2百万円	4.2百万円(街づくりまんぼう)

		事業番号6-③	20.0百万円	6.7百万円(石巻市) 13.3百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
令和7年度	114.9百万円	事業番号1-①	82.0百万円	27.3百万円(石巻市) 54.7百万円(文化観光推進事業補助(文化庁))
		事業番号1-②	6.0百万円	2.0百万円(街づくりまんぼう) 4.0百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号1-④	15.0百万円	15.0百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号1-⑤	1.2百万円	0.4百万円(街づくりまんぼう・石巻圏観光推進機構) 0.8百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号2-①	1.8百万円	0.6百万円(石巻観光協会) 1.2百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号3-①	1.5百万円	0.5百万円(石巻市・街づくりまんぼう) 1.0百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号4-①	2.0百万円	2.0百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号4-②	1.2百万円	0.4百万円(石巻圏観光推進機構・石巻観光協会) 0.8百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
令和8年度	108百万円	事業番号1-②	4.2百万円	0.3百万円(石巻市) 3.3百万円(街づくりまんぼう) 0.6百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号1-④	15.0百万円	15.0百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号1-⑤	1.2百万円	1.2百万円(街づくりまんぼう・石巻圏観光推進機構)
		事業番号2-①	1.8百万円	1.8百万円(石巻観光協会)
		事業番号3-①	1.5百万円	1.5百万円(石巻市・街づくりまんぼう)
		事業番号4-①	2.0百万円	2.0百万円(街づくりまんぼう)
		事業番号4-②	1.2百万円	0.4百万円(石巻圏観光推進機構・石巻観光協会) 0.8百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
		事業番号6-③	81.1百万円	41.1百万円(石巻市) 40.0百万円(文化観光推進事業補助金(文化庁))
令和9年度	62百万円	事業番号1-②	6.3百万円	1.0百万円(石巻市)

			1.1 百万円 (街づくりまんぼう) 4.2 百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号 1-③	3.0 百万円 1.0 百万円 (石巻市) 2.0 百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号 1-④	15.0 百万円 15.0 百万円 (街づくりまんぼう)
		事業番号 1-⑤	1.2 百万円 0.4 百万円 (街づくりまんぼう・石巻圏観光推進機構) 0.8 百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号 2-①	1.8 百万円 0.6 百万円 (石巻観光協会) 1.2 百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号 3-①	1.5 百万円 0.5 百万円 (石巻市・街づくりまんぼう) 1.0 百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号 4-①	2.0 百万円 2.0 百万円 (街づくりまんぼう)
		事業番号 4-②	1.2 百万円 0.4 百万円 (石巻圏観光推進機構・石巻観光協会) 0.8 百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号 6-②	30.0 百万円 10.0 百万円 (石巻市) 20.0 百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
合計	465.1 百万円		

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

## 8. 計画期間

計画期間：令和5年度～令和9年度（5年間）

### ■令和5年度

- 【魅力増進】 企画展示開催事業、マンガ列車を活用した体験ツアー催行事業
- 【物品販売】 コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業、ナイトイベントを活用した宿泊プラン造成事業
- 【宣伝活動】 海外の日本博等における「マンガのまち・石巻」の発信事業
- 【施設整備】 空調機能改修事業

### ■令和6年度

- 【魅力増進】 常設展示改修事業、原画デジタルベース化事業、原画展示コーナー改修検討事業、企画展開催事業、マンガ列車を活用した体験ツアー催行事業
- 【理解促進】 多言語版WEBサイト制作発信事業
- 【利便増進】 館内サイン多言語化事業
- 【物品販売】 コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業、ナイトイベントを活用した宿泊プラン造成事業
- 【宣伝活動】 海外の日本博等における「マンガのまち・石巻」の発信事業
- 【施設整備】 カフェスペース改修事業

### ■令和7年度

- 【魅力増進】 常設展示改修事業、原画デジタルベース化事業、企画展開催事業、マンガ列車を活用した体験ツアー催行事業
- 【理解促進】 多言語版WEBサイト制作発信事業
- 【利便増進】 デジタルサイネージ配信事業
- 【物品販売】 コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業、ナイトイベントを活用した宿泊プラン造成事業
- 【宣伝活動】 海外の日本博等における「マンガのまち・石巻」の発信事業

### ■令和8年度

- 【魅力増進】 原画デジタルベース化事業、原画展示コーナー改修検討事業、企画展開催事業、マンガ列車を活用した体験ツアー催行事業
- 【理解促進】 多言語版WEBサイト制作発信事業
- 【利便増進】 デジタルサイネージ配信事業
- 【物品販売】 コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業、ナイトイベントを活用した宿泊プラン造成事業
- 【宣伝活動】 海外の日本博等における「マンガのまち・石巻」の発信事業
- 【施設整備】 カフェスペース改修事業

### ■令和9年度

- 【魅力増進】 原画デジタルベース化事業、原画展示コーナー改修検討事業、企画展開催事業、マンガ列車を活用した体験ツアー催行事業
- 【理解促進】 多言語版WEBサイト制作発信事業
- 【利便増進】 デジタルサイネージ配信事業
- 【物品販売】 コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業、ナイトイベントを活用した宿泊プラン造成事業
- 【宣伝活動】 海外の日本博等における「マンガのまち・石巻」の発信事業
- 【施設整備】 原画展示コーナー整備事業